

設定手順マニュアル

品名	KES IoT Logic for CPTrans
型番	KILC12-LM*
版数	1.0

株式会社金沢エンジニアリングシステムズ
製作著作 © Kanazawa Engineering Systems Inc.

1. 内容

2.	はじめに	3
3.	設定手順	3
3.1.	Docker 環境の確認	3
3.2.	Docker イメージロードからイメージ起動	3
3.3.	ubuntu 環境の IP アドレスを確認	3
3.4.	初期設定の保存	3
3.5.	デバイス設定の保存	5
3.6.	設定ファイルの保存	5
3.7.	GW の設定ファイルを GW へ書き込む	5
3.8.	SIM 情報変更手順	11
3.9.	パスワード変更手順(Web GUI)	14
3.10.	IP アドレス変更手順	16
4.	操作手順	18
4.1.	ユーザー認証	18
4.1.1.	初回起動時の設定	18
4.1.2.	2 回目以降の起動時	20
4.2.	初期設定	21
4.2.1.	初期設定①	21
4.2.2.	初期設定②	22
4.2.3.	初期設定③	39
4.2.4.	初期設定④	43
4.3.	デバイス設定	44
4.3.1.	デバイス設定	44
4.3.2.	プロトコル設定	46
4.3.3.	サンプリングデバイス設定	58
4.3.4.	クラウドとのタグ設定	64
4.4.	バックアップ	75
4.4.1.	設定内容のバックアップ	75
5.	共通操作	76
5.1.	CSV のインポート、エクスポートについて	76
5.1.1.	CSV からのインポート	77
5.1.2.	CSV からのインポート	79

2. はじめに

Windows PC(OS:windows10 64 ビット)の環境にて Docker を起動し、GW へ設定ファイルをインストールする手順について説明します。このマニュアルは、以下の操作のために必要な Docker の知識のある方を対象に記載しています。

3. 設定手順

3.1. Docker 環境の確認

Linux 環境にて「docker version」コマンドを入力し Docker のバージョンが表示されることを確認してください。

※WindowsPC の場合は WSL2 をインストール後 Microsoft Store から「Windows Subsystem for Linux」と「Ubuntu」をインストールし、Docker をインストールしてください。

3.2. Docker イメージロードからイメージ起動

① : Docker イメージ

`CPT_dockerimage_v2.tar`

を任意の場所に保存します

② : コマンドプロンプトを起動し、①の場所まで移動します

③ : 下記コマンドを実施しイメージをロードします

`docker load < CPT_dockerimage_v2.tar`

④ : 下記コマンドを実施し docker イメージを起動(xxxx は任意の文字列)します

`docker container run --name xxxx -d -it -p 80:80 cptrans_images5`

3.3. ubuntu 環境の IP アドレスを確認

① : 下記コマンドを実施し、IP アドレスを表示します

`ip -br address`

3.4. 初期設定の保存

① : PC でブラウザ(Google Chrome)を立ち上げ、3.3 で確認した IP アドレスのポート 80 に接続します

`http://IP アドレス:80`

②：ログイン画面が表示されるので、ユーザー名(admin)とパスワード(12345678)を入力し、“ログイン”を押下します

・ユーザー名またはパスワードの入力に誤りがあった場合は、再度ログイン画面が表示されます



③：KES IoT Logic の GUI が立ち上がるので初期設定を任意に設定します

※初期設定①と④などは読み取り専用のため変更できません



④：初期設定が完了したら保存を押下します



3.5. デバイス設定の保存

- ①：デバイス設定を任意に設定します
- ②：クラウドとタグ設定まで入力完了したら保存を押下します

3.6. 設定ファイルの保存

- ①：バックアップ画面で設定内容のバックアップを実行します
- 3つのファイル(kesiotlogic_1.signed, kesiotlogic_2.signed, kesiotlogic_db_1.signed)が PC にダウンロードされます



3.7. GW の設定ファイルを GW へ書き込む

- ①：PC の IP アドレスを 192.168.253.* (*は 1~252 の任意の数字)に設定します
- ②：GW の LAN1 ポートと PC の LAN ポートを接続します

③：GW の電源を ON にします

④：PC でブラウザ(Google Chrome)を立ち上げ、192.168.253.253 に接続します

⑤：ログイン画面が表示されますので、ユーザー名(admin)とパスワード(manager)を入力し、“ログイン”を押下します



⑥：アップデートアイコンを選択します



⑦：手動アップデート(ブラウザから)を選択します



⑧：ファイルを選択を実施し、3-6 でダウンロードしたファイル(kesiotlogic_1.signed)を選択し、送信を実施します



⑨：アップロードが完了したらホームへ戻り、システム⇒about⇒再起動(本体)を実施します



⑩：リロード指示が表示されたらホームへ戻り、再度アップデートアイコンを選択します



⑪：手動アップデート(ブラウザから)を選択します



⑫：ファイルを選択を実施し、3-6 でダウンロードしたファイル(kesiotlogic_2.signed)を選択し、送信を実施します



⑬：アップロードが完了したらホームへ戻り、システム⇒about⇒再起動(本体)を実施します



⑭：リロード指示が表示されたらホームへ戻り、再度アップデートアイコンを選択します



⑮：手動アップデート(ブラウザから)を選択します



⑯: ファイルを選択を実施し、3-6 でダウンロードしたファイル(kesiotlogic_db_1.signed)を選択し、送信を実施します



⑰: アップロードが完了したらホームへ戻り、システム⇒about⇒再起動(本体)を実施します

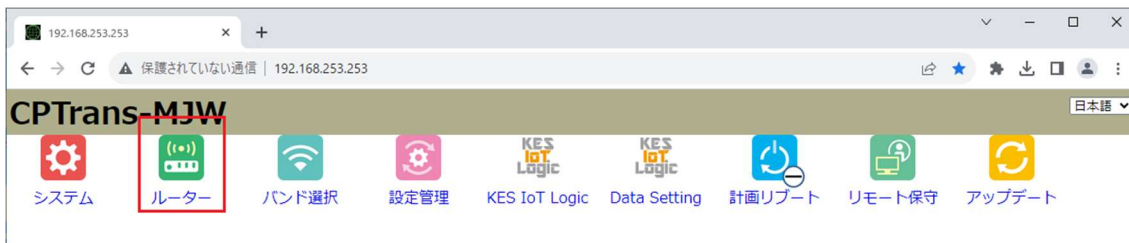


3.8. SIM 情報変更手順

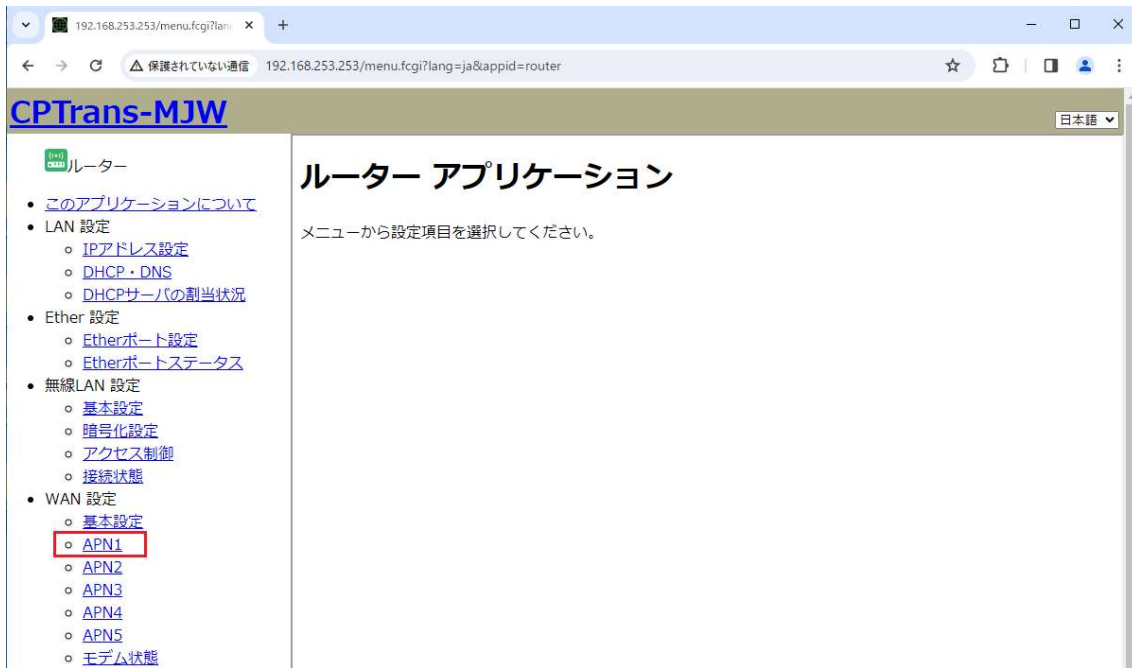
- ① : PC の IP アドレスを 192.168.253.* (*は 1~252 の任意の数字) に設定します
- ② : GW の LAN1 ポートと PC の LAN ポートを接続します
- ③ : GW の電源を ON にします
- ④ : PC でブラウザ(Google Chrome)を立ち上げ、192.168.253.253 に接続します
- ⑤ : ログイン画面が表示されますので、ユーザー名(admin)とパスワード(manager)を入力し、“ログイン”を押下します



- ⑥ : ルーターアイコンを選択します



⑦：WAN 設定-APN1 を選択します



⑧：基本設定を修正します



⑨：画面下までスクロールし、保存を押下します

接続状態

現在の接続状態

接続ステート	切断
WAN IPアドレス	
WAN ネットマスク	0.0.0.0
ゲートウェイIPアドレス	
プライマリDNS IPアドレス	
セカンダリDNS IPアドレス	
IPv6 WAN IPアドレス	
IPv6 ゲートウェイIPアドレス	
IPv6 プライマリDNS IPアドレス	
IPv6 セカンダリDNS IPアドレス	
WANポート受信バイト数	0
WANポート受信パケット数	0
WANポート送信バイト数	0
WANポート送信パケット数	0

接続 ⓘ

切断

保存

© Hitachi Industrial Equipment Systems Co.,Ltd. 2020. All rights reserved.

⑩：ホームへ戻り、システム⇒about⇒再起動(本体)を実施します

CPTrans-MJW

日本語

システム

- このアプリケーションについて
- CLI設定
- Web GUI 設定
- SIMピンロック設定
- デバイス固有情報
- その他の設定
- 管理
 - プロセス状態
 - about
- ホームへ戻る

再起動(本体)

設定を工場出荷時に戻す

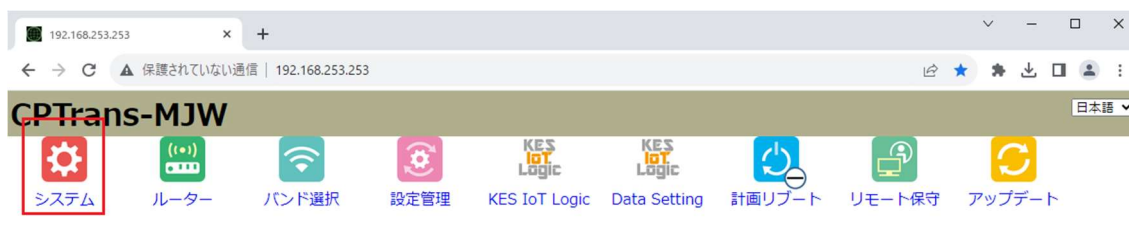
ログ1(stdout)

3.9. パスワード変更手順(Web GUI)

- ① : PC の IP アドレスを 192.168.253.* (*は 1~252 の任意の数字)に設定します
- ② : GW の LAN1 ポートと PC の LAN ポートを接続します
- ③ : GW の電源を ON にします
- ④ : PC でブラウザ(Google Chrome)を立ち上げ、192.168.253.253 に接続します
- ⑤ : ログイン画面が表示されますので、ユーザー名(admin)とパスワード(manager)を入力し、“ログイン”を押下します



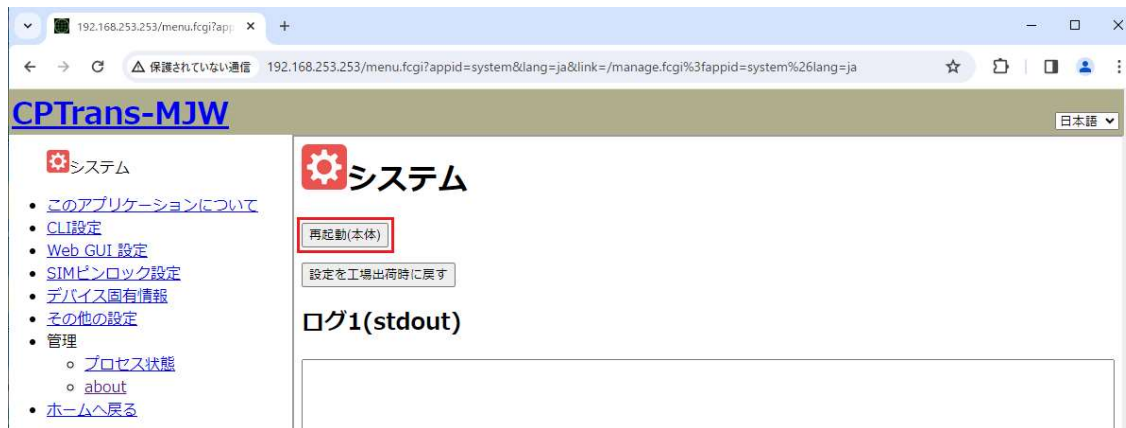
- ⑥ : システムアイコンを選択します



⑦：Web GUI 設定のパスワードを変更し、保存を実施します



⑧：ホームへ戻り、システム⇒about⇒再起動(本体)を実施します

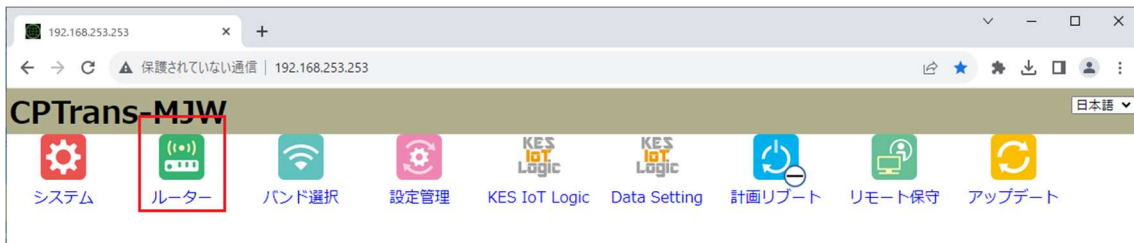


3.10. IP アドレス変更手順

- ① : PC の IP アドレスを 192.168.253.* (*は 1~252 の任意の数字) に設定します
- ② : GW の LAN1 ポートと PC の LAN ポートを接続します
- ③ : GW の電源を ON にします
- ④ : PC でブラウザ(Google Chrome)を立ち上げ、192.168.253.253 に接続します
- ⑤ : ログイン画面が表示されますので、ユーザー名(admin)とパスワード(manager)を入力し、“ログイン”を押下します



- ⑥ : ルータアイコンを選択します



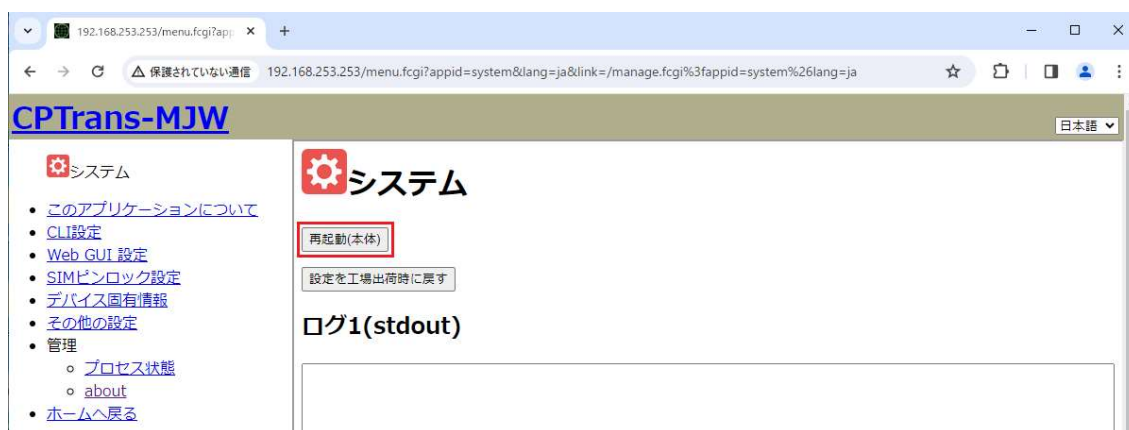
- ⑦ : IP アドレス設定を選択します



- ⑧ : IP アドレスを変更し、保存を押下します



⑨：ホームへ戻り、システム⇒about⇒再起動(本体)を実施します



※IP アドレスのネットワーク部を 192.168.253 以外に変更した場合、3.7～3.10 の手順の①と④の設定は、変更したネットワーク部及び IP アドレスにしてください

4. 操作手順

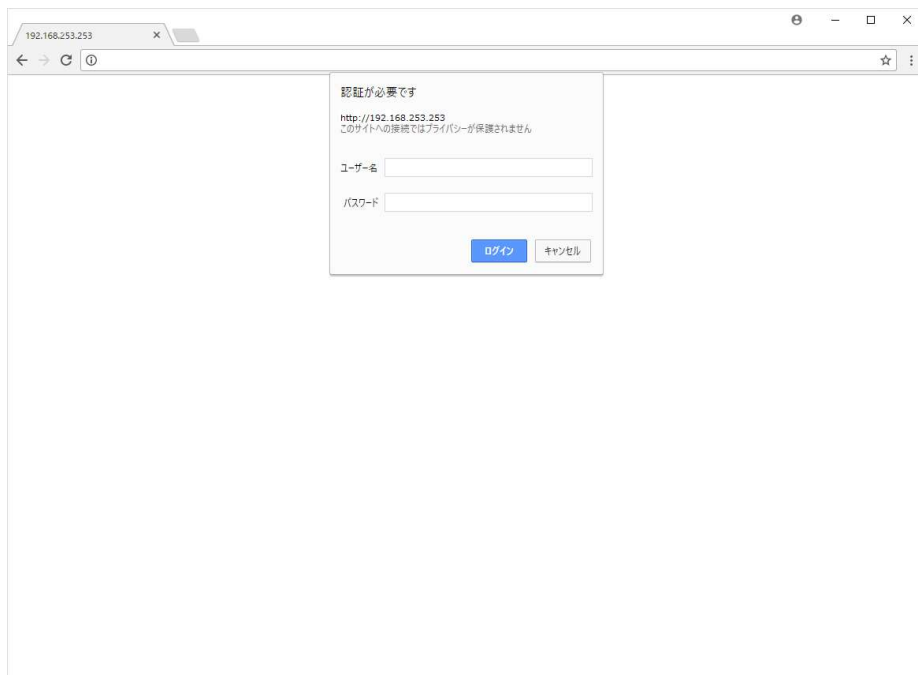
本章では Docker イメージ起動後の設定画面の操作方法について説明します。

4.1. ユーザー認証

GUI の起動時にユーザー認証を行います。

4.1.1. 初回起動時の設定

- ① PC でブラウザ(Google Chrome)を立ち上げ、localhost に接続します。
- ② ログイン画面が表示されますので、ユーザー名とパスワードを入力し、“ログイン”をクリックします。
 - ・キャンセルをクリックするとエラー画面が表示されます。
ログイン画面に戻る場合は、ページを再読み込みしてください。
 - ・ユーザー名またはパスワードの入力に誤りがあった場合は、再度ログイン画面が表示されます。



[初期設定内容]

本製品の工場出荷時のユーザー名とパスワードは、以下の通りです。

項目	入力値	
ユーザー名	admin	user
パスワード	12345678	12345678

[ユーザーの権限]

管理者ユーザー(admin)と一般ユーザー(user)で設定・確認できる権限は、以下の通りです。

メニュー項目	設定・確認できる権限	
	管理者(admin)	一般(user)
初期設定	○	×(※1)
デバイス設定	○	○
バックアップ	○	○

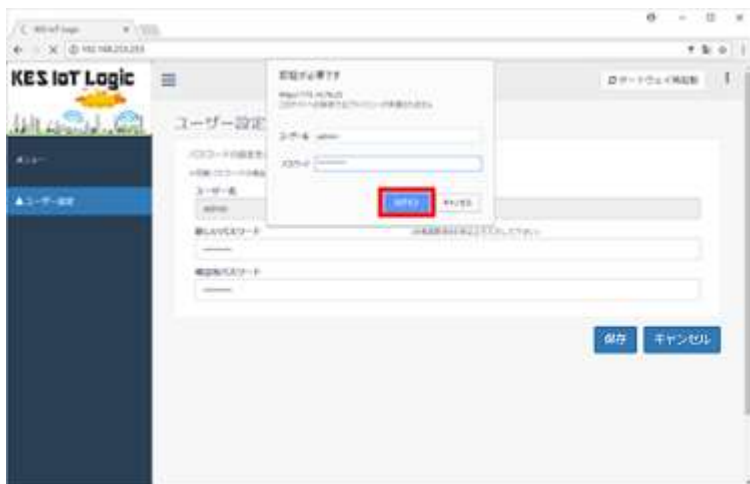
※1 管理者(admin)のユーザー設定のアカウントロール設定で変更できます。

③ ユーザー設定画面が表示されるので、新しいパスワード(半角英数字8文字以上)と確認用パスワード(新しいパスワードをもう一度入力)を入力して”保存”をクリックしてください。

※”キャンセル”をクリックしても画面は推移しますが、初期パスワードの変更をお勧めします。

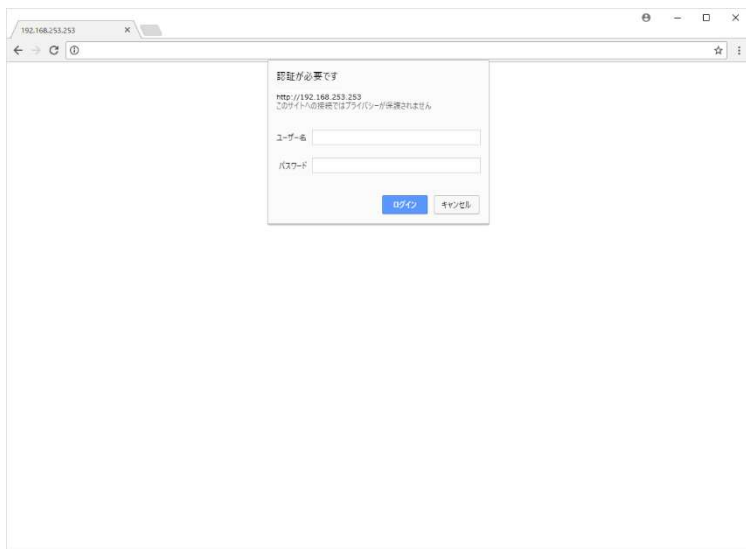


- ④ 再度ログイン画面が表示されますので、ユーザー名と設定したパスワードを入力してログインします。



4.1.2. 2回目以降の起動時

- ① PCでブラウザ(Google Chrome)を立ち上げ、localhostに接続します。
- ② ログイン画面が表示されますので、ユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。
 - ・キャンセルをクリックするとエラー画面が表示されます。
ログイン画面に戻る場合は、ページを再読み込みしてください。
 - ・ユーザー名またはパスワードの入力に誤りがあった場合は、再度ログイン画面が表示されます。



4.2. 初期設定

クラウドの設定やゲートウェイの設定をすることができます。

4.2.1. 初期設定①

4.2.1.1. 上位接続ルート選択

上位接続ルートは「モバイル回線設定」に固定されています。この画面では設定は出来ません。

初期設定 設定1~4まで順番に設定して下さい。

1 初期設定①

2 初期設定②

3 初期設定③

4 初期設定④

上位接続ルート設定

上位接続ルート選択

モバイル回線設定

モバイル回線設定

APN (半角で入力して下さい)

ユーザー名 (半角で入力して下さい)

パスワード (半角で入力して下さい)

保存 次へ 戻る

4.2.2. 初期設定②

4.2.2.1. AWS

クラウド選択、AWS IoT Thing の設定をすることができます。

初期設定 設定 1～4 まで順番に設定して下さい。

1 初期設定① 2 初期設定② 3 初期設定③ 4 初期設定④



クラウド設定

クラウド選択
AWS IoT Thing

Thing設定

エンドポイント (半角で入力して下さい)

モノの名前

D2C

C2D

CA証明書
ファイル選択

プライベートキー
ファイル選択

保存 次へ 戻る

[設定項目]

クラウド設定	
項目	説明
クラウド選択	使用するクラウドサービスを選択します。
Thing 設定	
項目	説明
エンドポイント	AWS IoT のエンドポイント名前を入力します。
モノの名前	AWS IoT へ接続するためのモノの名前を入力します。
D2C	D2C 機能を選択します。 none:機能なし publish:publish 機能が有効になる
・ D2C=publish	
Publish トピック	Publish トピックを入力します。
Publish タグ	Publish タグを入力します。
Publish シーケンス	Publish シーケンスを入力します。
Publish メッセージメンバー	Publish メッセージメンバーを入力します。
項目	説明
C2D	C2D 機能を選択します。 none:機能なし subscribe:subscribe 機能が有効になる
・ C2D=subscribe	
Subscribe トピック	Subscribe トピックを入力します。
項目	説明
CA 証明書	AWS IoT へ接続するための証明書を選択します。
プライベートキー	AWS IoT へ接続するためのプライベートキーを選択します。

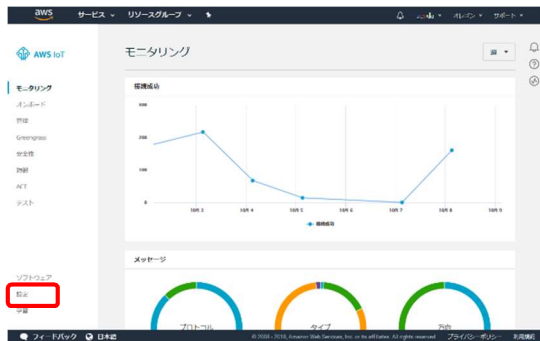
クラウドは”AWS”、プロトコルは”MQTT”となります。

エンドポイントの確認方法、モノの作成を行います。

<前提>

- ・ AWS アカウントを作成してください。
- ・ AWS マネージメントコンソールより「IoT Core」コンソールのページを移動してください。

① エンドポイントの確認方法



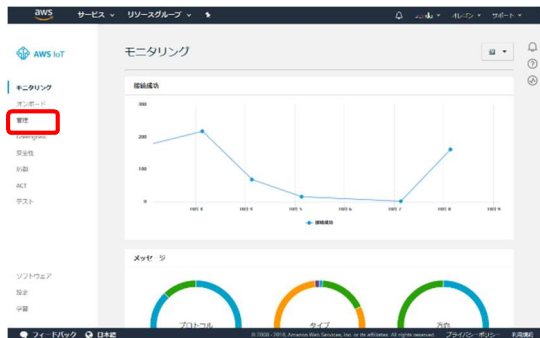
左ペイン下の「設定」を開きます。

②



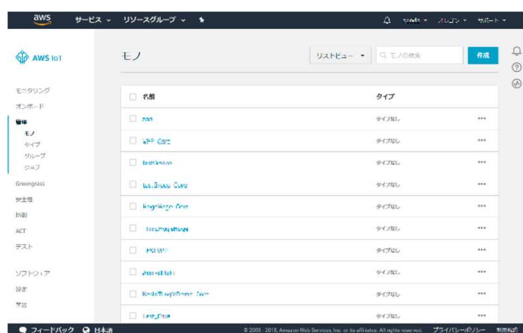
「エンドポイント」が確認できます。
この文字列をメモ帳などで保存します。

③モノの作成



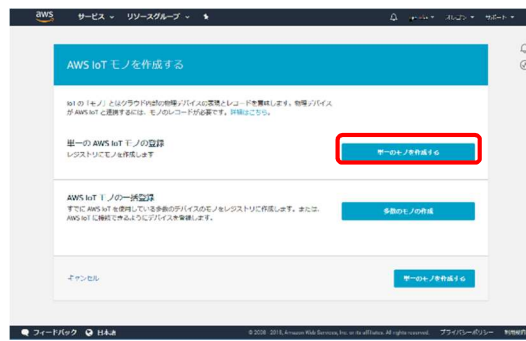
左ペイン上の「管理」の「モノ」を開きます。

④



右上の「作成」を開きます。

⑤



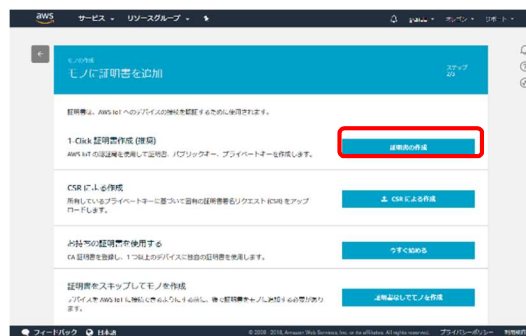
「単一のモノを作成する」を開きます。

⑥



「名前」を付けて「次へ」へ進みます。
この名前をメモ帳などで保存します。

⑦



「証明書の作成」へ進みます。

⑧



証明書、キーをダウンロードし、ファイル保存しておきます。

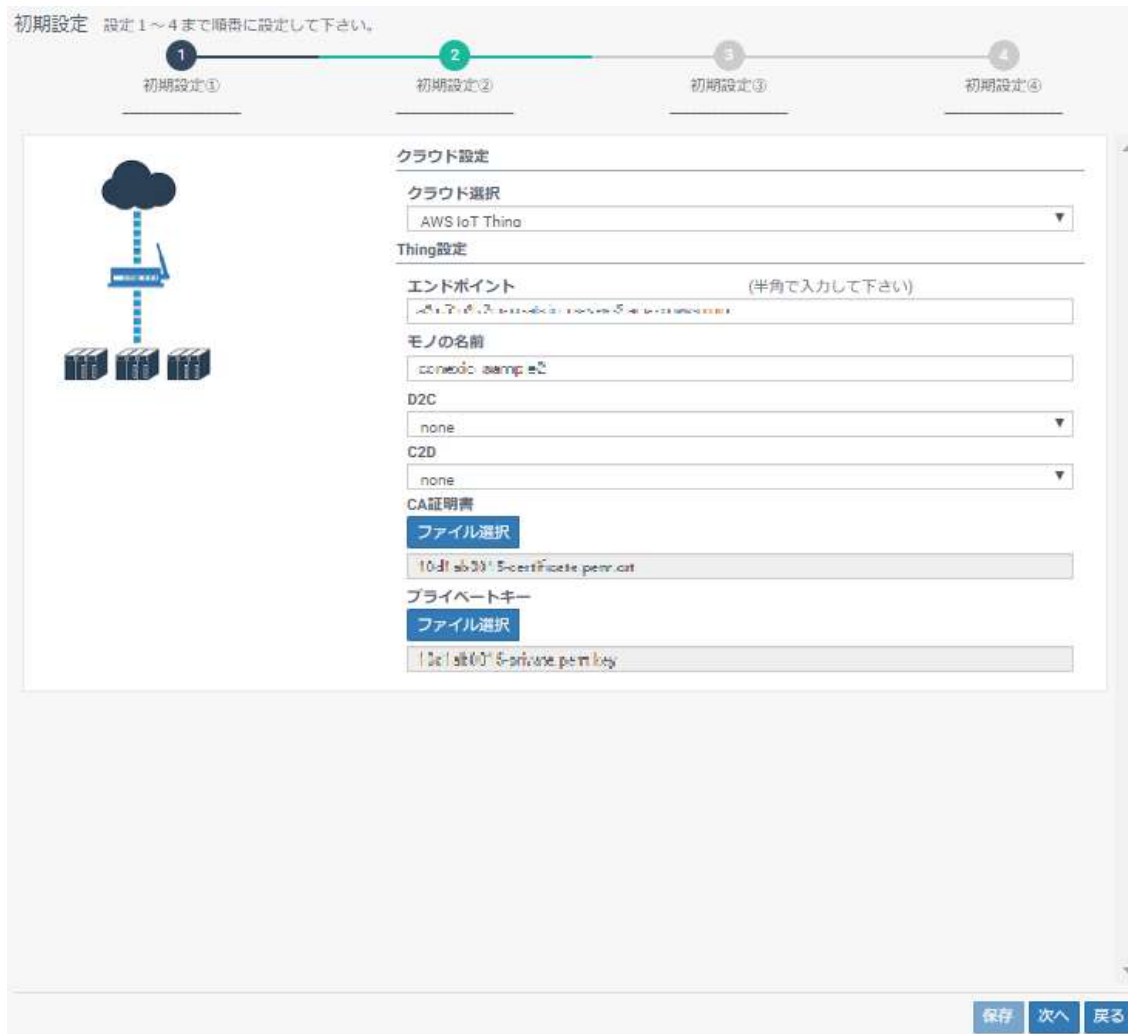
「完了」へ進みます。ここまでの「モノの作成」は完了です。

②にて保存したエンドポイント名を「エンドポイント」の欄に入力します。

⑥にて保存したモノの名前を「モノの名前」の欄に入力します。

⑧にてダウンロードした、モノの証明書、パブリックキー、プライベートキーをそれぞれ「ファイル選択」にて、指定します。

設定値を入力したら、「次へ」をクリックします。



初期設定 設定 1～4 まで順番に設定して下さい。

1 初期設定①

2 初期設定②

3 初期設定③

4 初期設定④

クラウド設定

クラウド選択
AWS IoT Thing

Thing設定

エンドポイント (半角で入力して下さい)

モノの名前
connected-thing-02

D2C
none

C2D
none

CA証明書
ファイル選択
10-df-ab3315-certificate.pem.crt

プライベートキー
ファイル選択
10-df-ab3315-private.pem.key


保存 次へ 戻る

4.2.2.2. Azure

クラウド選択、Microsoft Azure IoT Device の設定をすることができます。

初期設定 設定1~4まで順番に設定して下さい。

1 初期設定① 2 初期設定② 3 初期設定③ 4 初期設定④



クラウド設定

クラウド選択
Microsoft Azure IoT Device

IoT Device設定

IoTHub名 (半角で入力して下さい)

D2C/C2Dメッセージ用

デバイスID (半角で入力して下さい)

アクセスキー (半角で入力して下さい)

DirectMethod

メソッド名 (半角で入力して下さい)

保存 次へ 戻る

[設定項目]

クラウド設定	
項目	説明
クラウド選択	使用するクラウドサービスを選択します。
IoT Device 設定	
項目	説明
IoTHub 名	ゲートウェイとの通信に使用する Azure IoT Hub の名前を入力します。
D2C/C2D メッセージ用	
項目	説明
デバイス ID	D2C (デバイス→クラウド)メッセージ用のデバイス ID を入力します。
アクセスキー	D2C メッセージ用のデバイス ID に対応するアクセスキーを入力します。接続文字列とは異なるので注意してください。
DirectMethod	
項目	説明
メソッド名	ダイレクトメソッド用(結果を即座に確認することが求められる通信)のメソッド名を入力します。

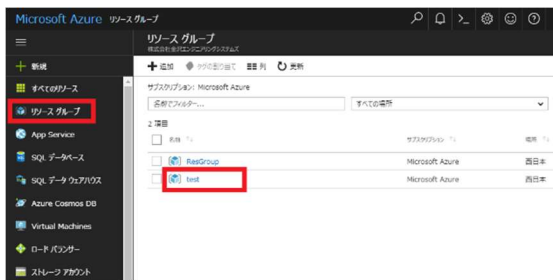
クラウドは”Microsoft Azure”、プロトコルは”MQTT”となります。

IoTHub 名の確認方法

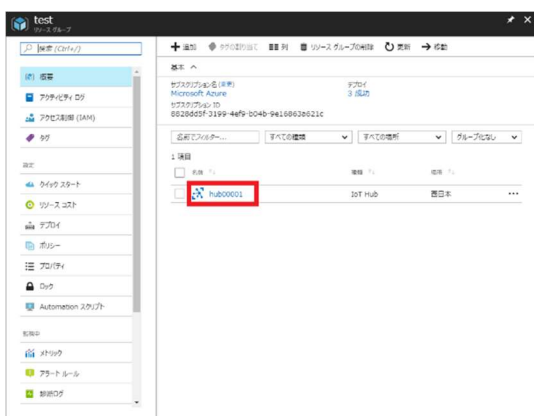
<前提>

- ・ Microsoft Azure アカウントを作成してください。
- ・ Azure ポータルより「IoT Core」コンソールのページを移動してください。
- ・ 「リソースの作成」、「モノのインターネット (IoT)」 「IoTHub」へ進み、IoTHub を作成してください。

① リソースグループを選択。



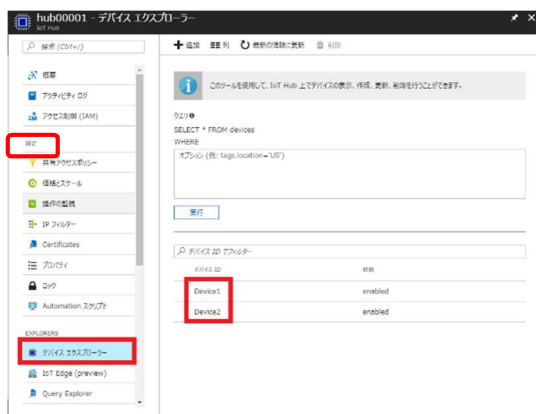
② IoT Hub 名を選択。



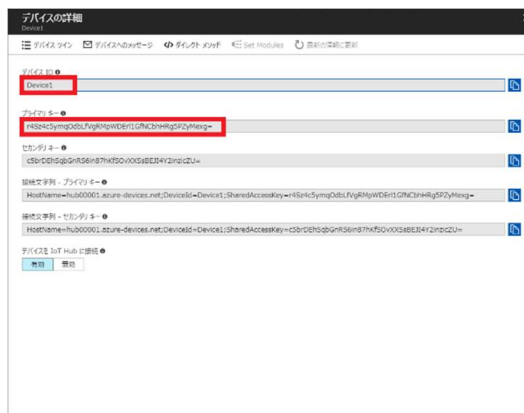
この IoT Hub の名前をメモ帳などで保存します。

・ デバイス ID、アクセスキーの確認方法

③ 使用する IoT Hub を選択し、デバイス エクスプローラーをクリックして、確認するデバイス ID を選択します。



④ デバイス ID とアクセスキーを確認できます。




この「デバイス ID」「プライマリーキー」をメモ帳などで保存します。

- ・②、④で保存した IoTHub 名、デバイス ID、プライマリーキーを入力します。
設定値を入力したら、“次へ”をクリックします。

初期設定 設定 1 ~ 4 まで順番に設定して下さい。

1 初期設定① 2 初期設定② 3 初期設定③ 4 初期設定④



クラウド設定

クラウド選択
Microsoft Azure IoT Device

IoT Device 設定

IoT Hub 名 (半角で入力して下さい)
iohubname

D2C/C2Dメッセージ用

デバイスID (半角で入力して下さい)
deviceid

アクセスキー (半角で入力して下さい)
devicekey

保存 次へ 戻る

4.2.2.3. IoT Core Connect

クラウド選択、SBテクノロジーIoT Core Connect の設定をすることができます。

初期設定 設定 1 ~ 4 まで順番に設定して下さい。

1 初期設定① 2 初期設定② 3 初期設定③ 4 初期設定④



クラウド設定

クラウド選択
SBテクノロジー IoT Core Connect

IoT Core Connect設定

IoTHub (半角で入力して下さい)

D2C/C2Dメッセージ用

デバイスID (半角で入力して下さい)

アクセスキー (半角で入力して下さい)

DirectMethod

メソッド名 (半角で入力して下さい)

ICCデバイス情報設定

ICCテナントID

ICCデバイスID

ICCデバイスタイプ

ICCデバイスバージョン

保存 次へ 戻る

[設定項目]

クラウド設定	
項目	説明
クラウド選択	使用するクラウドサービスを選択します。
IoT Device 設定	
項目	説明
IoT Hub 名	ゲートウェイとの通信に使用する ICC IoT Hub の名前を入力します。
D2C/C2D メッセージ用	
項目	説明
デバイス ID	D2C (デバイス→クラウド)メッセージ用のデバイス ID を入力します。
アクセスキー	D2C メッセージ用のデバイス ID に対応するアクセスキーを入力します。接続文字列とは異なるので注意してください。
DirectMethod	
項目	説明
メソッド名	ダイレクトメソッド用(結果を即座に確認することが求められる通信)のメソッド名を入力します。
ICC デバイス情報設定	
項目	説明
ICC テナント ID	テナント ID を入力します。
ICC デバイス ID	デバイス ID を入力します。
ICC デバイスタイプ	デバイスタイプを入力します。
ICC デバイスバージョン	デバイスバージョンを入力します。


設定値を入力したら、“次へ”をクリックします。

4.2.2.4. Machine Advisor

クラウド選択、EcoStruxure Machine Advisor の設定をすることができます。

初期設定 設定 1~4 まで順番に設定して下さい。

1 初期設定① 2 初期設定② 3 初期設定③ 4 初期設定④



クラウド設定

クラウド選択
EcoStruxure Machine Advisor

EcoStruxure Machine Advisor 設定

Server

Token

保存 次へ 戻る

[設定項目]

クラウド設定	
項目	説明
クラウド選択	使用するクラウドサービスを選択します。
EcoStruxure Machine Advisor 設定	
項目	説明
Server	Server の設定を入力します。
Token	トークンの設定を入力します。


設定値を入力したら、“次へ”をクリックします。

4.2.2.5. 汎用 MQTT サービス

クラウド選択、汎用クラウド(MQTT)の設定をすることができます。

初期設定 設定 1~4 まで順番に設定して下さい。

1 初期設定① 2 初期設定② 3 初期設定③ 4 初期設定④



クラウド設定

クラウド選択
汎用(MQTTプロトコル利用) ▼

MQTT設定

エンドポイント (半角で入力して下さい)

Publishトピック (半角で入力して下さい)

Subscribeトピック (半角で入力して下さい)

受信周期 (半角で入力して下さい)
500

デバイスID (半角で入力して下さい)

username (半角で入力して下さい)

password (半角で入力して下さい)

セッションタイムアウト (半角で入力して下さい)
10

保存 次へ 戻る

[設定項目]

クラウド設定	
項目	説明
クラウド選択	使用するクラウドサービスを選択します。
汎用クラウド(MQTT)設定	
項目	説明
エンドポイント	接続先の MQTT ブローカの IP アドレスや接続先となる URL を入力します。
Publish トピック	Publish トピックを入力します。
Subscribe トピック	Subscribe トピックを入力します。
受信周期	受信周期を入力します。
デバイス ID	デバイス ID を入力します。
username	ユーザー名を入力します。 使用しない場合は入力不要です。
password	パスワードを入力します。 使用しない場合は入力不要です。
セッションタイムアウト	セッションタイムアウトを入力します。


設定値を入力したら、“次へ”をクリックします。

4.2.2.6. 汎用 HTTP サービス

クラウド選択、汎用(cURL 利用)の設定をすることができます。

初期設定 設定 1 ~ 4 まで順番に設定して下さい。

1 初期設定① 2 初期設定② 3 初期設定③ 4 初期設定④



クラウド設定

クラウド選択
汎用(cURL利用) ▼

cURL設定

cURL コマンドパラメータ

d コマンドパラメータ

保存 次へ 戻る

[設定項目]

クラウド設定	
項目	説明
クラウド選択	使用するクラウドサービスを選択します。 製品モデルごとで固定となります。
汎用クラウド設定	
項目	説明
cURL コマンドパラメータ	<ul style="list-style-type: none"> ・ curl に渡すパラメータを入力します。 (例) <pre>-X POST -H "Content-Type: text/plain" -H "Accept:application/json" --basic -u test:test https://www.kesiotlogic-endpoint.co.jp/data/</pre>
-d コマンドパラメータ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動作中に変わるパラメータ(PLC のメモリー値)等は、CURL コマンド専用のシステム変数("logic_data"固定)を入力します。 (例) JSON データ <pre>{{logic_data}}</pre> <ul style="list-style-type: none"> ・ エンコードして送信する場合は、システム変数前にエンコード形式を [] で囲い入力します。 (例) <pre>{{[BASE64]logic_data}}</pre>

設定値を入力したら、“次へ”をクリックします。

4.2.3. 初期設定③

ゲートウェイの時刻設定、アップロード共通データ設定及び、接続確認先設定をすることができます。

初期設定 設定 1~4 まで順番に設定して下さい。

1 初期設定① 2 初期設定② 3 初期設定③ 4 初期設定④

その他設定

時刻設定

NTPによる自動取得 ON OFF

タイムゾーン
Tokyo

サーバー名 (手動で入力して下さい)
ntp.nict.jp

アップロード共通データ設定

PLC収集時刻通知キー (手動で入力して下さい)
entryDatetime

PLC収集時刻通知フォーマット (手動で入力して下さい)
%FT%T+09:00

接続確認先設定

ICMサーバー名 (手動で入力して下さい)
google.co.jp

保存 次へ 戻る

[設定項目]

・時刻設定

項目	説明	備考
NTP による自動取得	ゲートウェイが NTP を利用して自動的にサーバーと時刻を同期するかどうかを設定します。 ON に設定すると自動的に時刻を同期します。	設定不可

	OFF に設定すると手動時刻設定で入力した時刻を設定し、以降の時刻確認は行いません。	
タイムゾーン	ゲートウェイのタイムゾーン(標準時)を選択します。	設定不可
・ NTP による自動取得=ON		
サーバー名	ゲートウェイが時刻を同期するサーバー名を入力します。	設定不可
・ NTP による自動取得=OFF		
手動時刻設定	ゲートウェイに設定する時刻を入力します。	設定不可

・アップロード共通データ設定

項目	説明
PLC 収集時刻通知キー	PLC から収集する時刻通知キー名を入力します。 ※クラウド選択にて「Machine Advisor」を選択した場合は固定値が入ります。
PLC 収集時刻通知フォーマット	時刻通知するデータフォーマットを入力します。 ※クラウド選択にて「Machine Advisor」を選択した場合は固定値が入ります。

■ PLC 収集時刻通知フォーマット 書式指定

PLC からデータを読み込んだ直後の時刻を PLC 収集時刻通知フォーマット で指定された書式指定に従って変換し、送信 JSON データ に付与します。

「変換指定子」は '%' 文字で始まり、「変換指定文字」で終端する部分を指します。使用できる変換指定子は以下となります。

書式文字列に含まれる通常の文字は変換されずそのまま格納します。

変換指定子	説明
%a	現在のロケールにおける曜日の省略名。
%A	現在のロケールにおける曜日の完全な名前。
%b	現在のロケールにおける月の省略名。
%B	現在のロケールにおける月の完全な名前。
%c	現在のロケールにおいて一般的な日付・時刻の表記。
%C	世紀 (西暦年の上 2 桁)。 (SU)
%d	月内通算日 (10 進数表記) (01-31)。
%D	%m/%d/%y と等価。 (SU)
%e	%d と同様に月内通算日を 10 進数で表現するが、1 桁の場合 10 の位にゼロを置かずスペースを置く。 (SU)
%E	別形式を使用する際の修飾子。下記参照。 (SU)
%F	%Y-%m-%d と等価 (ISO 8601 形式の日付フォーマット)。 (C99)
%G	ISO 8601 形式の年 (世紀も 10 進数で表す)。ISO 週数 (%V を参照)に対応した 4 桁の西暦年。これは基本的には %y と同じ形式だが、ISO 週数が前年や翌年になる場合にはその年が使用される。 (TZ)
%g	%G と同様。但し、世紀を含まず下 2 桁のみを表示 (00-99)。 (TZ)

%h	%b と等価 (SU)
%H	24 時間表記での時 (hour)。 (00-23)
%l	12 時間表記での時 (hour)。 (01-12)
%j	年の初めから通算の日数。 (001-366)
%k	24 時間表記での時 (0-23)。 1 桁の場合には前にゼロでなくスペースが置かれる。 (%H も参照) (TZ)
%l	12 時間表記での時 (0-12)。 1 桁の場合には前にゼロでなくスペースが置かれる。 (%l も参照) (TZ)
%m	月 (10 進数表記)。 (01-12)
%M	分 (10 進数表記) (00-59)
%n	改行。 (SU)
%O	別形式を使用する際の修飾子。以下を参照。 (SU)
%p	現在のロケールにおける「午前」「午後」に相当する文字列。英語の場合には "AM" または "PM" となる。正午は「午後」、真夜中は「午前」として扱われる。
%P	%p と同様であるが小文字が使用される。英語の場合には "am" や "pm" となる。 (GNU)
%r	午前・午後形式での時刻。 POSIX ロケールでは %l:%M:%S %p と等価である。 (SU)
%R	24 時間表記での時刻、秒は表示しない (%H:%M)。秒を含んだものは以下の %T を参照すること。 (SU)
%s	紀元 (1970 年 1 月 1 日 00:00:00 UTC) からの秒数。 (TZ)
%S	秒 (10 進数表記) (00-60) (時々ある閏秒に対応するため、値の範囲は 60 までとなっている)
%t	タブ文字 (SU)
%T	24 時間表記の時間 (%H:%M:%S) (SU)
%u	週の何番目の日 (10 進数表記) か。月曜日を 1 とする (1-7)。 %w も参照。 (SU)
%U	年の初めからの通算の週数 (10 進数表記) (00-53)。その年の最初の日曜日を、第 1 週の始まりとして計算する。 %V と %W も参照すること。
%V	ISO 8601:1988 形式での年の始めからの週数 (10 進数表記) (00-53)。その年に少なくとも 4 日以上含まれる最初の週を 1 として計算する。週の始まりは月曜日とする。 %U と %W も参照すること。
%w	週の何番目の日 (10 進数表記) か。日曜日を 0 とする。(0-6) 。 %u も参照。 (SU)
%W	年の初めからの通算の週数 (10 進数表記) (00-53)。その年の最初の月曜日を、第 1 週の始まりとして計算する。
%x	現在のロケールで一般的な日付表記。時刻は含まない。
%X	現在のロケールで一般的な時刻表記。日付は含まない。
%y	西暦の下 2 桁 (世紀部分を含まない年) (00-99)。
%Y	世紀部分を含めた (4 桁) 西暦年。
%z	タイムゾーンの GMT へのオフセット時間。 RFC 822 形式の日時に必要である。 ("%a, %d %b %Y %H:%M:%S %z" として使用する)。 (GNU)
%Z	タイムゾーンまたはゾーン名または省略名。
%+	date(1) 形式での日時。 (TZ) (glibc2 ではサポートされていない)
%%	'%' 文字。

(例)

PLC 収集時刻通知フォーマット %FT%T+9:00 の場合

2021 年 10 月 1 日 1 時 1 分 1 秒

%F T %T +9:00

%Y-%m-%d 、文字列“T”、%H:%M:%S、文字列“+9:00” として変換

“2021-10-01T01:01:01+9:00” が格納されます。

・接続確認先設定

項目	説明	備考
----	----	----

ICM サーバー名	ネットワークの疎通を確認するサーバー名を入力します。	設定不可
-----------	----------------------------	------

設定値を入力したら、“次へ”をクリックします。

4.2.4. 初期設定④

ゲートウェイの下位側の LAN 設定は固定です。この画面では設定は出来ません。

初期設定 設定 1～4 まで順番に設定して下さい。

1 初期設定① 2 初期設定② 3 初期設定③ 4 初期設定④



下位接続LAN設定

LAN設定

IPアドレス (半角で入力して下さい 例: 192.168.10.1)

サブネットマスク (半角で入力して下さい 例: 255.255.255.0)

保存 次へ 戻る

設定値を入力したら、“保存”をクリックします。
(保存だけでは設定項目は反映されません。)

4.3. デバイス設定

接続するデバイスの設定をすることができます。

4.3.1. デバイス設定

接続するデバイスの通信方式などを設定することができます。

4.3.1.1. 設定値の入力

セルをクリックして、設定値を入力・選択してください。

右クリックメニューより、行の追加・削除などが選択できます。

入力時にセルが赤色になっているものは設定不可能な値です。設定値を変更してください。

これらの注釈は、“▼ 詳細説明”をクリックすることで確認できます。

デバイス設定

デバイス設定
プロトコル接続設定
サンプリングデバイス設定
クラウドとのタグ設定

接続するデバイスの設定をして下さい。

↑ CSVからのインポート
↓ CSVへのエクスポート

▼ 詳細説明

	デバイスNo	プロトコル	ユニット名	バージョン
1	1~8			

[設定項目]

デバイス設定	
項目	説明
デバイス No	デバイス No を入力します。
プロトコル	PLC との通信プロトコル「MC プロトコル」、「MC プロトコル シリアル」、「FINS コマンド」、「KEYENCE 上位リンク」、「MODBUS TCP」、「MODBUS RTU」、「MODBUS ASCII」を選択します。 「MC プロトコル シリアル」、「MODBUS RTU」と「MODBUS ASCII」は複数選択できません。
ユニット名	ゲートウェイと接続するデバイスのユニット名を入力します。 任意な文字列を割り当てることができます。 重複しない値を入力してください。
バージョン	クラウドとのタグ時のバージョン情報として使用します。データ内容を変更する際に併せて変更してください。

4.3.2. プロトコル設定

各プロトコルの設定をすることができます。

4.3.2.1. 設定値の入力

セルをクリックして、設定値を入力・選択してください。

右クリックメニューより、行の追加・削除などが選択できます。

入力時にセルが赤色になっているものは設定不可能な値です。設定値を変更してください。

これらの注釈は、“▼ 詳細説明”をクリックすることで確認できます。

4.3.2.2. 三菱電機(MELSEC)

デバイス設定

デバイス設定 プロトコル接続設定 サンプリングデバイス設定 クラウドとのタグ設定

設定するデバイスNo.を選択し、プロトコルの接続設定を下下さい。

デバイスNo. 1: MCプロトコル: test CSVからのインポート CSVへのエクスポート

▼ 詳細説明

	読み取り周期 [s]	IPアドレス	接続対象ポート番号	GWポート番号	接続プロトコル	MELSECプロトコル	局番	監視タイマ [ms]	タイムアウト時間 [s]	PING確認	確認結果
1	1~99999			any			0~31	1~65535	8	確認	

[設定項目]

プロトコル接続設定	
項目	説明
読み取り周期[s]	PLC のデータの読み取り周期(1~99999)[s]を設定します。
IP アドレス	PLC の IP アドレスを指定します。
接続対象ポート番号	接続する PLC のポート番号(0~65535)を入力します。
GW ポート番号	データを受け取る際のゲートウェイのポートを指定します。 ゲートウェイ側のポート番号('any',0~65535)を入力します。 “any”の場合は OS が自動的に設定するポートを使用します。
接続プロトコル	PLC との通信方法「UDP」、「TCP」を選択します。
MELSEC プロトコル	MELSEC のプロトコル情報を設定します。 使用している PLC のモデルに合わせて設定してください。 A 互換 1E フレーム使用時は“1E”、 QnA 互換 3E フレーム使用時は“3E”を設定します。
局番	ゲートウェイと接続する PLC に局番(0~31)を割り当てます。
監視タイマ(×250)[ms]	CPU 処理完了を待つ時間(1~65535)を設定します。 設定値(×250)[ms]が実際の監視タイマ時間になります。
タイムアウト時間[s]	応答を待つ時間(2~30)を設定します。 デフォルト値は 8 です。
PING 確認	入力した IP アドレスに対して PING 確認を実施します。
確認結果	PING 確認結果を表示します。(成功:Success,失敗:Failure)

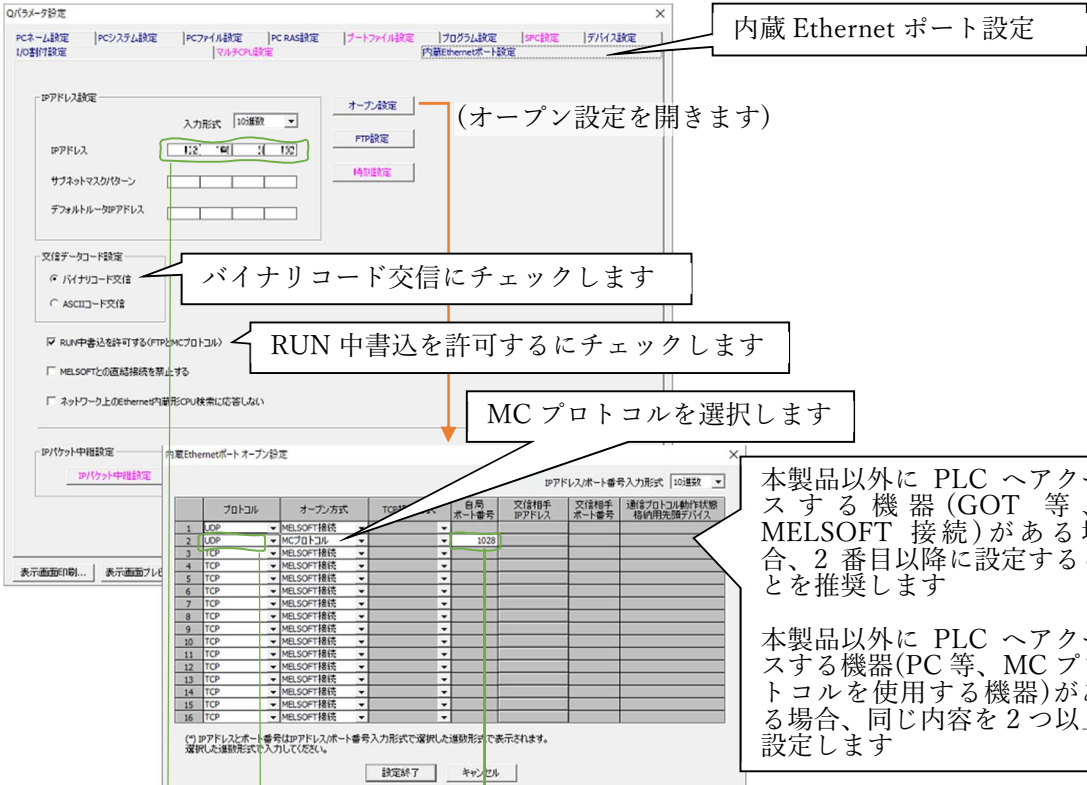
● GX Works2 の設定との関連性

GX Works2 の設定とプロトコル接続設定の内容を合わせておく必要があります。

■内蔵 Ethernet ポートに接続

GX Works2 プロジェクトビュー – パラメータ – PC パラメータ 画面にて下記の設定を行ってください。また、本製品側の設定を合わせてください。

(GX Works2 PC パラメータ 画面)



内蔵 Ethernet ポート設定

(オープン設定を開きます)

バイナリコード交信にチェックします

RUN 中書込を許可するにチェックします

MC プロトコルを選択します

本製品以外に PLC へアクセスする機器 (GOT 等、MELSOFT 接続) がある場合、2 番目以降に設定することを推奨します

本製品以外に PLC へアクセスする機器 (PC 等、MC プロトコルを使用する機器) がある場合、同じ内容を 2 つ以上設定します

デバイス設定

デバイスNo. [1 : MCプロトコル : melsec]

QnA, F は 1E
他は 3E を指定

PLC と同一ポート、または any を設定

接続局(自局)の場合は 0、ネットワークを経由する場合は PLC 局番を指定

読み取り周期 [s]	IPアドレス	接続対象ポート番号	GWポート番号	接続プロトコル	MELSECプロトコル	局番	監視タイム [ms]
1	192.168.1.10	1028		UDP	3E	0	16

(注重点) MELSEC-Q シリーズの例です。他シリーズ、他ツールでは設定方法が異なる場合がございます。

■Ethernet ユニットに接続

GX Works2 プロジェクトビュー - パラメータ - ネットワークパラメータ - Ethernet/CC IE / MELSECNET 画面にて下記の設定を行ってください。また、本製品側の設定を合わせてください。

(GX Works2 Ethernet/CC IE / MELSECNET 画面)

例:ユニット 2 に Ethernet ユニットがある場合

先頭 I/O No.は I/O 割付に合わせて、ネットワーク No.、グループ No.はネットワーク構成に合わせて設定します

(オープン設定を開きます)

固定バッファ:受信
 送信手順:手順あり
 ペアリングオープン:
 ペアにしない
 生存確認:確認しない
 に設定します

(動作設定を開きます)


バイナリコード送信、常に OPEN 待ちにチェックします

RUN 中書込を許可するにチェックします

本製品以外に PLC へアクセスする機器(PC 等、MC プロトコルを使用する機器)がある場合、同じ内容を 2 つ以上設定します

送信相手 IP アドレスは本製品の IP アドレスを指定します
 他アクセスする機器がなく本装置の IP アドレスが変更になる可能性がある場合はブロードキャストアドレス(yyy.yyy.yyy.255)でも通信可能です

(本製品 プロトコル接続設定 画面)



読み取り周期 [s]	IPアドレス	接続対象ポート番号	GWポート番号	接続プロトコル	MELSECプロトコル	局番
1	192.168.1.10	1	1	UDP	3E	0

QnA, F は 1E
他は 3E を指定

接続局(自局)の場合は 0、
ネットワークを経由する
場合は PLC 局番を指定

(注意点) MELSEC-Q シリーズの例です。他シリーズ、他ツールでは設定方法が異なる場合がございます。

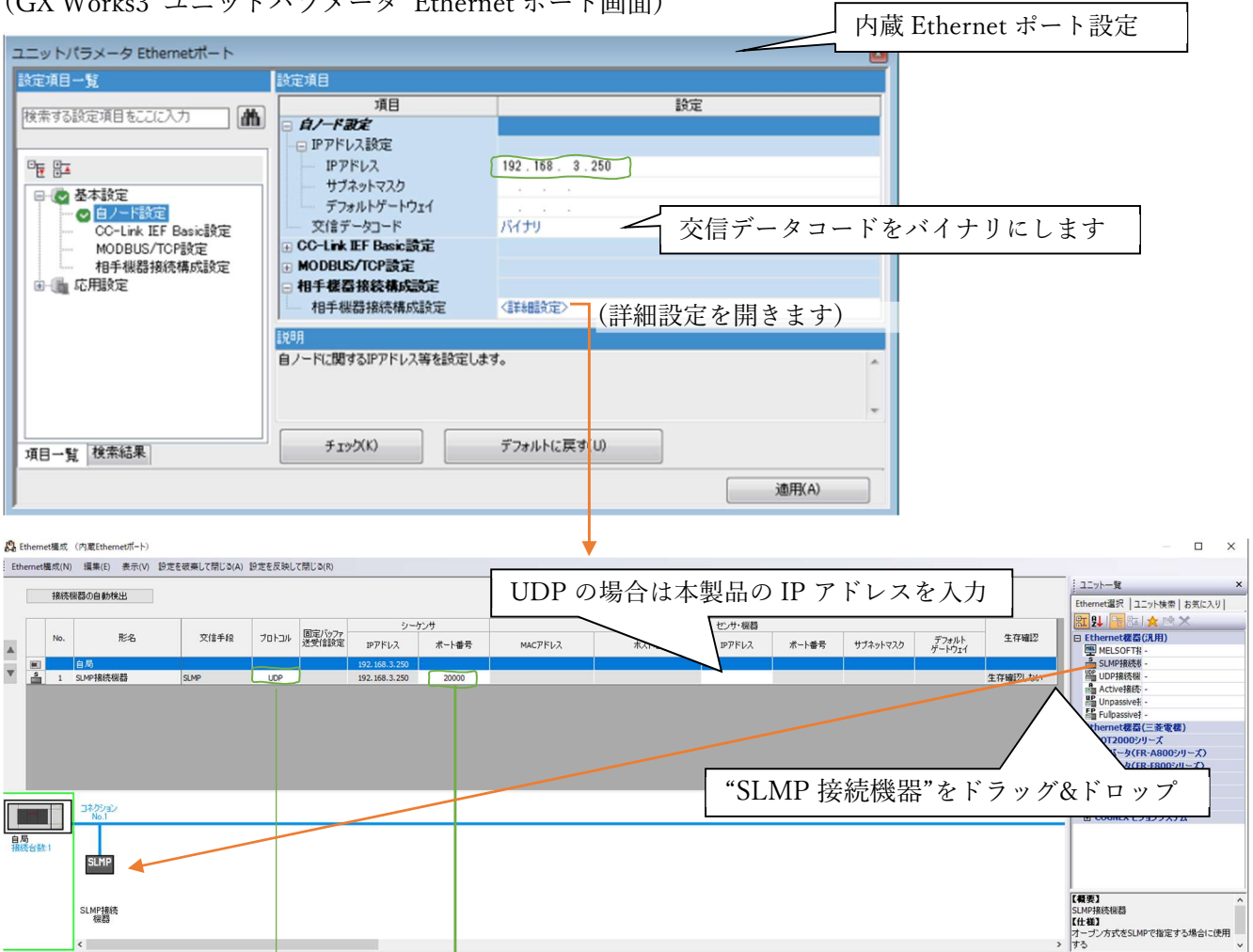
● GX Works3 の設定との関連性

GX Works3 の設定とプロトコル接続設定の内容を合わせておく必要があります。

■内蔵 Ethernet ポートに接続

GX Works3 プロジェクトビュー – パラメータ – ユニット形名 – ユニットパラメータ – Ethernet ポート – 基本設定 – 自ノード設定 画面にて下記の設定を行ってください。また、本製品側の設定を合わせてください。

(GX Works3 ユニットパラメータ Ethernet ポート画面)



内蔵 Ethernet ポート設定

通信データコードをバイナリにします

(詳細設定を開きます)

UDP の場合は本製品の IP アドレスを入力

“SLMP 接続機器”をドラッグ&ドロップ

接続局(自局)の場合は 0、ネットワークを経由する場合は PLC 局番を指定

PLC と同一ポート、または any を設定

UDP の場合の IP アドレス: 192.168.3.250

ポート番号: 20000

接続局番号: 0

(本製品 プロトコル接続設定 画面)

デバイス設定

デバイス設定 プロトコル接続設定 サンプリングデバイス設定 クラウドとのタグ設定

設定するデバイスNo.を選択し、プロトコルの接続設定をして下さい。

デバイスNo. 1: MCプロトコル:melsec CSVからのインポート CSVへのエクスポート

▼ 詳細説明

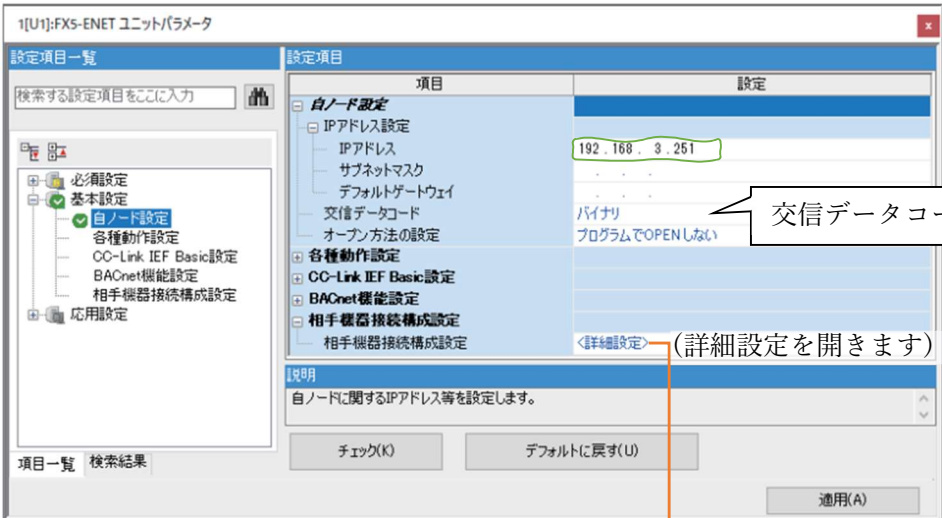
	読み取り周期 [s]	IPアドレス	接続対象ポート番号	GWポート番号	接続プロトコル	MELSECプロトコル	局番	監視タイム [ms]
1	15	192.168.3.251			UDP	3E	0	16

(注意点) MELSEC-FX シリーズの例です。他シリーズ、他ツールでは設定方法が異なる場合がございます。

■Ethernet ユニットに接続

GX Works3 プロジェクトビュー – パラメータ – ユニット情報 – FX5ENET or FX5-ENET/IP – 基本設定 – 自ノード設定 画面にて下記の設定を行ってください。また、本製品側の設定を合わせてください。

(GX Works3 FX-5ENET ユニットパラメータ 画面)



1[U1]:FX5-ENET ユニットパラメータ

設定項目一覧

検索する設定項目をここに入力

必須設定
基本設定
自ノード設定
各種動作設定
CC-Link IEF Basic設定
BACnet機能設定
相手機器接続構成設定
応用設定

設定項目

項目	設定
自ノード設定	
IPアドレス設定	
IPアドレス	192.168.3.251
サブネットマスク	
デフォルトゲートウェイ	
通信データコード	バイナリ
オープン方法の設定	プログラムでOPENしない
各種動作設定	
CC-Link IEF Basic設定	
BACnet機能設定	
相手機器接続構成設定	
相手機器接続構成設定	

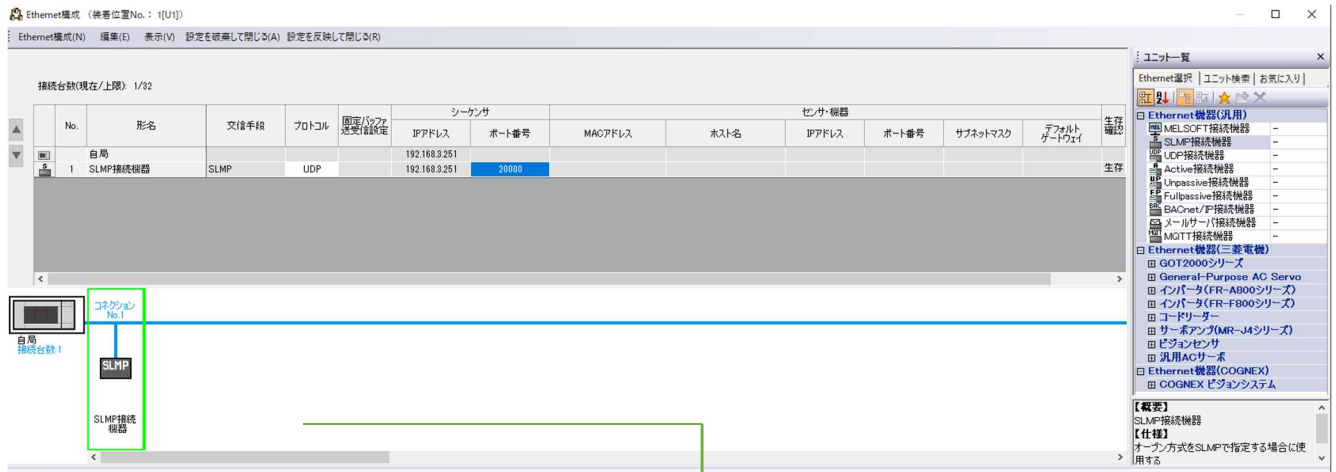
通信データコードをバイナリにします

(詳細設定を開きます)

説明
自ノードに関するIPアドレス等を設定します。

チェック(K) デフォルトに戻す(U) 適用(A)

“SLMP 接続機器”をドラッグ&ドロップ



(本製品 プロトコル接続設定 画面)



(注意点) MELSEC-FX シリーズの例です。他シリーズ、他ツールでは設定方法が異なる場合がございます。

4.3.2.3. Modbus TCP



[設定項目]

プロトコル接続設定	
項目	説明
読み取り周期[s]	PLC のデータの読み取り周期(1~99999)[s]を設定します。
IP アドレス	PLC の IP アドレスを指定します。

GW ポート番号	未使用
タイムアウト時間[s]	応答を待つ時間(2~30)を設定します。 デフォルト値は8です。
PING 確認	入力した IP アドレスに対して PING 確認を実施します。
確認結果	PING 確認結果を表示します。(成功:Success,失敗:Failure)

4.3.2.4. FINS コマンド

デバイス設定

デバイス設定 | プロトコル接続設定 | サンプルングデバイス設定 | クラウドとのタグ設定

設定するデバイスNo.を選択し、プロトコルの接続設定をして下さい。

デバイスNo. [1: FINSコマンド: test] | CSVからのインポート | CSVへのエクスポート

▼ 詳細設定

1	読み取り周期[s]	IPアドレス	接続対象ポート番号	接続プロトコル	相手先ネットワークアドレス	相手先ノードアドレス	相手先号機アドレス	発行元ネットワークアドレス	発行元ノードアドレス	発行元号機アドレス	タイムアウト時間[s]	PING確認	確認結果
	1~99999				00,01~7F	00,01~FE	00,10~1FE1	00,01~7F	00,01~FE	00,10~1FE1	8	<input type="checkbox"/>	

[設定項目]

プロトコル接続設定	
項目	説明
読み取り周期[s]	PLC のデータの読み取り周期(1~99999)[s]を設定します。
IP アドレス	PLC の IP アドレスを指定します。
接続対象ポート番号	接続する PLC のポート番号(0~65535)を入力します。
接続プロトコル	PLC との通信方法「UDP」、「TCP」を選択します。
相手先ネットワークアドレス	相手先ネットワークアドレス(00,01~7F)を割り当てます。
相手先ノードアドレス	相手先ノードアドレス(00,01~FE)を割り当てます。
相手先号機アドレス	相手先号機アドレス(00, 10~1F,E1)を割り当てます。
発行元ネットワークアドレス	発行元ネットワークアドレス(00,01~7F)を割り当てます。
発行元ノードアドレス	発行元ノードアドレス(00,01~FE)を割り当てます。
発行元号機アドレス	発行元号機アドレス(00, 10~1F,E1)を割り当てます。
タイムアウト時間[s]	応答を待つ時間(2~30)を設定します。 デフォルト値は8です。
PING 確認	入力した IP アドレスに対して PING 確認を実施します。
確認結果	PING 確認結果を表示します。(成功:Success,失敗:Failure)

4.3.2.5. KEYENCE 上位リンク

デバイス設定

デバイス設定 プロトコル接続設定 サンプリングデバイス設定 クラウドとのタグ設定

設定するデバイスNo.を選択し、プロトコルの接続設定をして下さい。

デバイスNo.

[▼ 詳細説明](#)

	読み取り周期 [s]	IPアドレス	接続対象ポート番号	接続プロトコル	タイムアウト時間 [s]	PING確認	確認結果
1	1~99999				8	<input type="button" value="確認"/>	

[設定項目]

PLC 設定	
項目	説明
読み取り周期[s]	PLC のデータの読み取り周期(1~99999)[s]を設定します。
IP アドレス	PLC の IP アドレスを指定します。
接続対象ポート番号	接続する PLC のポート番号(0~65535)を入力します。
接続プロトコル	PLC との通信方法「UDP」、「TCP」を選択します。
タイムアウト時間[s]	応答を待つ時間(2~30)を設定します。 デフォルト値は 8 です。
PING 確認	入力した IP アドレスに対して PING 確認を実施します。
確認結果	PING 確認結果を表示します。(成功:Success,失敗:Failure)

4.3.2.6. 三菱電機(MELSEC シリアル)

デバイス設定

デバイス設定 プロトコル接続設定 サンプリングデバイス設定 クラウドとのタグ設定

設定するデバイスNo.を選択し、プロトコルの接続設定をして下さい。

デバイスNo. [1: MCプロトコル シリアル: test] CSVからのインポート CSVへのエクスポート

▼ 詳細説明

	読み取り周期 [s]	ボーレート	データ長	ストップビット	パリティ	フロー制御	インターフェース	MELSECプロトコル	伝送形式	サムチェック	監視タイマ [ms]	タイムアウト時間 [s]
1	1~99999										0~15	8

[設定項目]

プロトコル接続設定	
項目	説明
読み取り周期[s]	PLC のデータの読み取り周期(1~99999)[s]を設定します。
ボーレート	ボーレート「4800bps」、「9600bps」、「19200bps」、「38400bps」、「57600bps」、「115Kbps」を選択します。
データ長	データ長「7bit」、「8bit」を選択します。
ストップビット	ストップビット「1bit」、「2bit」を選択します。
パリティ	パリティ「なし」、「奇数」、「偶数」を選択します。
フロー制御	フロー制御「なし」(固定)を選択します。
インターフェース	インターフェース「RS-232C」、「RS-485 Half Duplex」、「RS-485/RS-422 Full Duplex」を選択します。
MELSEC プロトコル	MELSEC のプロトコル情報を設定します。 使用している PLC のモデルに合わせて設定してください。 A 互換 1C フレーム使用時は"1C"、 QnA 互換 3C フレーム使用時は"3C" を設定します。
伝送形式	伝送形式を設定します。 使用している PLC の設定に合わせてください。 「形式 1_8 進」、「形式 1_16 進」、「形式 4_8 進」、「形式 4_16 進」 を選択します。
サムチェック	サムチェック「有効」、「無効」を選択します。
監視タイマ(×10)[ms]	コマンドを受信後、送信するまでの待ち時間(0~15)を指定します。 設定値(×10)[ms]が実際のタイマ時間になります。 ※MELSECプロトコル "1C"の場合のみ有効。
タイムアウト時間[s]	応答を待つ時間(2~30)を設定します。 デフォルト値は 8 です。

4.3.2.7. Modbus RTU,Modbus ASCII

デバイス設定

デバイス設定 プロトコル接続設定 サンプルングデバイス設定 クラウドとのタグ設定

設定するデバイスNo.を選択し、プロトコルの接続設定をして下さい。

デバイスNo.

▼ 詳細説明

	読み取り周期 [s]	ボーレート	データ長	ストップビット	パリティ	フロー制御	インターフェース	タイムアウト時間 [s]
1	1~99999							8

[設定項目]

PLC 設定	
項目	説明
読み取り周期[s]	PLC のデータの読み取り周期(1~99999)[s]を設定します。
ボーレート	ボーレート「4800bps」、「9600bps」、「19200bps」、「38400bps」、「57600bps」、「115Kbps」を選択します。
データ長	データ長「7bit」、「8bit」を選択します。
ストップビット	ストップビット「1bit」、「2bit」を選択します。
パリティ	パリティ「なし」、「奇数」、「偶数」を選択します。
フロー制御	フロー制御「なし」(固定)を選択します。
インターフェース	インターフェース「RS-232C」、「RS-485 Half Duplex」、「RS-485/RS-422 Full Duplex」を選択します。
タイムアウト時間[s]	応答を待つ時間(2~30)を設定します。 デフォルト値は 8 です。

4.3.2.8. CSV のインポート、エクスポート

「[5.1 CSV のインポート、エクスポートについて](#)」を参照してください。

4.3.3. サンプルングデバイス設定

ゲートウェイが読み取るデバイスのメモリマップを設定することができます。

4.3.3.1. 設定値の入力

セルをクリックして、設定値を入力・選択してください。

右クリックメニューより、行の追加・削除などが選択できます。

入力時にセルが赤色になっているものは設定不可能な値です。設定値を変更してください。

PLC 設定で局番を削除した場合、対象局番の設定も自動で削除されます。

登録可能な最大数は 100 です。

これらの注釈は、“▼ 詳細説明”をクリックすることで確認できます。

4.3.3.2. 三菱電機(MELSEC)

デバイス設定

デバイス設定
プロトコル接続設定
サンプルングデバイス設定
クラウドとのタグ設定

サンプルングするデータの設定をして下さい。

デバイスNo. 1 : MCプロトコル : test

↑ CSVからのインポート
↓ CSVへのエクスポート

[▼ 詳細説明](#)

	デバイスコード	開始アドレス	アクセスタイプ	要素数
1		0~65535、0~FFFF		1~50

[設定項目]

サンプルングデバイス設定	
項目	説明
デバイスコード	PLC へのアクセスする際のデバイスコードを指定します。 プロトコル接続設定で選択した MELSEC プロトコルに対応したデバイスが選択可能です。
開始アドレス	データの読み取り開始アドレスを設定します。 デバイスコードのデータ表現により、10 進数/16 進数で入力します。詳しくはエラー! 参照元が見つかりません。エラー! 参照元が見つかりません。を参照ください
アクセスタイプ	データを読み出す単位「WORD」、「BIT」を設定します。
要素数	アドレス+(要素数-1)がアドレス範囲の最大を超えないように設定してください。1~50 までです。

4.3.3.3. Modbus TCP

デバイス設定

デバイス設定 プロトコル接続設定 サンプルングデバイス設定 クラウドとのタグ設定

サンプルングするデータの設定をして下さい。

デバイスNo. 1 : MODBUS TCP : test  CSVからのインポート  CSVへのエクスポート

[▼ 詳細説明](#)

	局番	ファンクションコード	開始アドレス	要素数
1	1~255		1~65535	1~50

[設定項目]

サンプルングデバイス設定	
項目	説明
局番	ゲートウェイに通知する PLC の局番を設定します。
ファンクションコード	PLC へのアクセスする際のファンクションコードを選択します。 設定したファンクションコードに従って、PLC は指定された機能を実行します。 1 : read coils Discrete Output の ON/OFF 状態を読出します。 2 : read discrete inputs Discrete Input の ON/OFF 状態を読出します。 3 : read holding registers 保持レジスタの内容を読出します。 4 : read input registers 入力レジスタの内容を読出します。
開始アドレス	データの読み取り開始アドレスを設定します。 10 進数で入力します。
要素数	アドレス+(要素数-1)がアドレス範囲の最大を超えないように設定してください。1~50 までです。

4.3.3.4. FINS コマンド

デバイス設定

デバイス設定 プロトコル接続設定 サンプルングデバイス設定 クラウドとのタグ設定

サンプルングするデータの設定をして下さい。

デバイスNo. 1 : FINSコマンド : test

[▼詳細説明](#)

	エリア種別	データ種類	開始アドレス	フラグ名	ビット指定	要素数
1			0~65535		0~15	1~50 または 1~16

[設定項目]

サンプルングデバイス設定	
項目	説明
エリア種別	PLC へのアクセスする際のエリア種別を選択します。
データ種類	データ種類を選択します。 エリア種別によって、選択できる種類が異なります。
開始アドレス	データの読み取り開始アドレスを設定します。 10 進数で入力します。
フラグ名	フラグ名を設定します。 エリア種別によって、選択できるようになります。
ビット指定	ビット指定を設定します。 エリア種別、データ種類によって設定できるようになります。
要素数	アドレス+(要素数-1)がアドレス範囲の最大を超えないように設定してください。1~50 または 1~16 までです。 ビット指定有効時は、ビット指定+要素数が 16 を超えないように設定してください。

4.3.3.5. KEYENCE 上位リンク

デバイス設定

デバイス設定 プロトコル接続設定 サンプルングデバイス設定 クラウドとのタグ設定

サンプルングするデータの設定をして下さい。

デバイスNo. 1 : KEYENCE 上位リンク : test  CSVからのインポート  CSVへのエクスポート

[▼ 詳細説明](#)

	デバイス	開始アドレス	要素数
1		0~999999、0~ FFFFFF	1~50

[設定項目]

サンプルングデバイス設定	
項目	説明
デバイス	PLC へのアクセスする際のデバイスを選択します。
開始アドレス	データの読み取り開始アドレスを設定します。 10 進数または 16 進数で入力します。
要素数	アドレス+(要素数-1)がアドレス範囲の最大を超えないように設定してください。1~50 までです。

4.3.3.6. 三菱電機(MELSEC シリアル)

デバイス設定

デバイス設定 プロトコル接続設定 サンプルングデバイス設定 クラウドとのタグ設定

サンプルングするデータの設定をして下さい。

デバイスNo. 1 : MCプロトコル シリアル : test  CSVからのインポート  CSVへのエクスポート

[▼ 詳細説明](#)

	局番	デバイスコード	開始アドレス	アクセスタイプ	要素数
1	0~255		0~65535、0~FFFF		1~50

[設定項目]

サンプルングデバイス設定	
項目	説明
局番	ゲートウェイに通知する PLC の局番を設定します。
デバイスコード	PLC へのアクセスする際のデバイスコードを指定します。 プロトコル接続設定で選択した MELSEC プロトコルに対応したデバイスが選択可能です。
開始アドレス	データの読み取り開始アドレスを設定します。 デバイスコードのデータ表現により、10 進数/16 進数で入力します。詳しくはエラー! 参照元が見つかりません。エラー! 参照元が見つかりません。を参照ください
アクセスタイプ	データを読み出す単位「WORD」、「BIT」を設定します。
要素数	アドレス+(要素数-1)がアドレス範囲の最大を超えないように設定してください。1~50 までです。

4.3.3.7. Modbus RTU, Modbus ASCII

デバイス設定

デバイス設定 プロトコル接続設定 サンプルングデバイス設定 クラウドとのタグ設定

サンプルングするデータの設定をして下さい。

デバイスNo. 1 : MODBUS RTU : test  CSVからのインポート  CSVへのエクスポート

[▼ 詳細説明](#)

	局番	ファンクションコード	開始アドレス	要素数
1	1~255		1~65535	1~50

[設定項目]

サンプルングデバイス設定	
項目	説明
局番	ゲートウェイに通知する PLC の局番を設定します。
ファンクションコード	PLC へのアクセスする際のファンクションコードを選択します。 設定したファンクションコードに従って、PLC は指定された機能を実行します。 1 : read coils Discrete Output の ON/OFF 状態を読出します。 2 : read discrete inputs Discrete Input の ON/OFF 状態を読出します。 3 : read holding registers 保持レジスタの内容を読出します。 4 : read input registers 入力レジスタの内容を読出します。
開始アドレス	データの読み取り開始アドレスを設定します。 10 進数で入力します。
要素数	アドレス+(要素数-1)がアドレス範囲の最大を超えないように設定してください。1~50 までです。

4.3.3.8. CSV のインポート、エクスポート

「[5.1 CSV のインポート、エクスポートについて](#)」を参照してください。

4.3.4. クラウドとのタグ設定

クラウドへアップロードする際の設定をすることができます。

4.3.4.1. 設定値の入力

セルをクリックして、設定値を入力・選択してください。

右クリックメニューより、行の追加・削除などが選択できます。

開始アドレスとインデックスを加算した値がアップロード対象のアドレスとなります。

入力時にセルが赤色になっているものは設定不可能な値です。設定値を変更してください。

登録可能な最大数は 200 です。

これらの注釈は、“▼ 詳細説明”をクリックすることで確認できます。

4.3.4.2. 三菱電機(MELSEC)



[設定項目]

クラウドとのタグ設定	
項目	説明
データ名	クラウドへアップロードするデータのデータ名を設定します。 設定したデータ名でクラウドへアップロードされます。 重複しないデータ名を入力してください。
スケーラー	データを計算する処理(乗算、除算)を設定します。
係数	スケーラーの係数を設定します。 スケーラーが未設定の場合は 1 になります。
オフセット	データを計算する処理(加算、減算)を設定します。
値	オフセットの値を設定します。 オフセットが未設定の場合は 0 になります。
デバイスコード	サンプリングデバイス設定に設定したデバイスコードを選択します。 サンプリングデバイス設定に設定していないデバイスコードを設定すると保存時にエラーになります。
開始アドレス	前項 デバイスコードが一致する、サンプリングデバイス設定に設定した開始アドレスを設定します。 前項 デバイスコードと一致しない、または、サンプリングデバイス設定に設定していない開始アドレスを設定すると保存時に

	エラーになります。 デバイスコードと開始アドレスで一意に決まります。
インデックス	前項 デバイスコードと開始アドレスが一致する、サンプリングデバイス設定に設定した要素数の範囲内で設定します。 範囲は、0 から要素数- 1 までの値となります。 要素数以上の値を設定すると保存時にエラーになります。
アクセスタイプ	未使用
データ型	クラウドへアップロードするデータのデータ型を設定します。データ型ごとにサイズと数値の範囲が異なります。 INT16：符号付き 16bit 整数 (-32768～32767) UINT16：符号なし 16bit 整数(0～65535) INT32：符号付き 32bit 整数(-2147383648～2147483647) UINT32：符号なし 32bit 整数(0～4294967295) FLOAT：32bit 単精度実数($\pm 10^{-38} \sim 10^{38}$) BIT：符号なし 16bit 整数(0～1) STRING：文字列
バイトオーダー	データ型が”STRING”のバイトオーダーを設定します。 ・リトルエンディアン ・ビッグエンディアン
文字列数(WORD 数)	文字列数(1～50)を設定します。

設定可否の条件

設定するデバイスコード、開始アドレス、インデックス、データ型により設定の可能、不可能があります。詳しくは**エラー! 参照元が見つかりません。エラー! 参照元が見つかりません。**を参照ください。

4.3.4.3. Modbus TCP

デバイス設定

デバイス設定 プロトコル接続設定 サンプルングデバイス設定 クラウドとのタグ設定

クラウドへアップロードするデータの設定をして下さい。

デバイスNo. 1 : MODBUS TCP : test サンプルング登録したデータを全て追加 CSVからのインポート CSVへのエクスポート

▼ 詳細説明

データ名	スケイラー	係数	オフセット	値	局番	ファンクションコード	開始アドレス	インデックス	データ型	バイトオーダー	文字列数(WORD数)
1					1~255		1~65535	0~49			1~50

[設定項目]

クラウドとのタグ設定	
項目	説明
データ名	クラウドへアップロードするデータのデータ名を設定します。 設定したデータ名でクラウドへアップロードされます。 重複しないデータ名を入力してください。
スケイラー	データを計算する処理(乗算、除算)を設定します。
係数	スケイラーの係数を設定します。 スケイラーが未設定の場合は1になります。
オフセット	データを計算する処理(加算、減算)を設定します。
値	オフセットの値を設定します。 オフセットが未設定の場合は0になります。
局番	クラウドへアップロードする PLC の局番を設定します。
ファンクションコード	クラウドへアップロードするファンクションコードを選択します。設定したファンクションコードに従って、PLC は指定された機能を実行します。 1 : read coils Discrete Output の ON/OFF 状態を読出します。 2 : read discrete inputs Discrete Input の ON/OFF 状態を読出します。 3 : read holding registers 保持レジスタの内容を読出します。 4 : read input registers 入力レジスタの内容を読出します。 5 : write single coil Discrete Output の ON/OFF 状態を書き込みます。 6 : write single register 保持レジスタの内容を書き込みます。
開始アドレス	クラウドへアップロードするデータの読み取り開始アドレスを

	<p>設定します。開始アドレスとインデックスの設定値によって、アップロード対象のアドレスを設定します。</p> <p>10進数で入力します。</p>
インデックス	<p>クラウドへアップロードするデータのインデックス(0~49)を入力します。</p> <p>サンプリングデバイス設定で登録した要素数の範囲で設定してください。</p>
データ型	<p>クラウドへアップロードするデータのデータ型を設定します。データ型ごとにサイズと数値の範囲が異なります。</p> <p>INT16：符号付き 16bit 整数 (-32768~32767)</p> <p>UINT16：符号なし 16bit 整数(0~65535)</p> <p>INT32：符号付き 32bit 整数(-2147383648~2147483647)</p> <p>UINT32：符号なし 32bit 整数(0~4294967295)</p> <p>FLOAT：32bit 単精度実数($\pm 10^{-38} \sim 10^{38}$)</p> <p>STRING：文字列</p>
バイトオーダー	<p>データ型が”STRING”のバイトオーダーを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リトルエンディアン ・ビッグエンディアン
文字列数(WORD 数)	<p>文字列数(1~50)を設定します。</p>

4.3.4.4. FINS コマンド

デバイス設定

デバイス設定 | プロトコル種類設定 | サンプリングデバイス設定 | クラウドとのタグ設定

クラウドへアップロードするデータの指定を完了しました。

デバイス名: FINSコマンド: 16bit | サンプリング登録したデータ全てで送信 | CSVからのインポート | CSVへのエクスポート

工場番号

データ名	スケイラー	係数	オフセット	値	エリア種別	開始アドレス	フラグ名	データ種類	ビット指定	インデックス	データ型	バイトオーダー	文字列長(WORD長)
1						0~65535				0~49 または 0~15			1~255

[設定項目]

クラウドとのタグ設定	
項目	説明
データ名	クラウドへアップロードするデータのデータ名を設定します。 設定したデータ名でクラウドへアップロードされます。 重複しないデータ名を入力してください。
スケイラー	データを計算する処理(乗算、除算)を設定します。
係数	スケイラーの係数を設定します。 スケイラーが未設定の場合は1になります。
オフセット	データを計算する処理(加算、減算)を設定します。
値	オフセットの値を設定します。 オフセットが未設定の場合は0になります。
エリア種別	クラウドへアップロードするエリア種別を選択します。
開始アドレス	データの読み取り開始アドレスを設定します。 10進数で入力します。
フラグ名	フラグ名を設定します。 エリア種別によって、選択できるようになります。
データ種類	データ種類を選択します。 エリア種別によって、選択できる種類が異なります。
ビット指定	ビット指定を設定します。 エリア種別、データ種類によって設定できるようになります。
インデックス	クラウドへアップロードするデータのインデックス(0~49 または 0~15)を入力します。 サンプリングデバイス設定で登録した要素数の範囲で設定してください。
データ型	クラウドへアップロードするデータのデータ型を設定します。データ型ごとにサイズと数値の範囲が異なります。 INT16 : 符号付き 16bit 整数 (-32768~32767) UINT16 : 符号なし 16bit 整数(0~65535) INT32 : 符号付き 32bit 整数(-2147383648~2147483647) UINT32 : 符号なし 32bit 整数(0~4294967295) BIT : 符号なし 16bit 整数(0~1)

	STRING：文字列
バイトオーダー	データ型が”STRING”のバイトオーダーを設定します。 ・リトルエンディアン ・ビッグエンディアン
文字列数(WORD 数)	文字列数(1~50)を設定します。

4.3.4.5. KEYENCE 上位リンク

デバイス設定

デバイス設定 プロトコル接続設定 サンプルングデバイス設定 クラウドとのタグ設定

クラウドへアップロードするデータの指定をして下さい。

デバイスNo. 1: KEYENCE 上位リンク: test サンプルング登録したデータを全て追加

▼ 詳細説明

データ名	スケーラー	係数	オフセット	値	デバイス	開始アドレス	インデックス	データ形式	バイトオーダー	文字列数(WORD数)
1						0~999999, 0~FFFFFF	0~49			1~50

[設定項目]

クラウドとのタグ設定	
項目	説明
データ名	クラウドへアップロードするデータのデータ名を設定します。 設定したデータ名でクラウドへアップロードされます。 重複しないデータ名を入力してください。
スケーラー	データを計算する処理(乗算、除算)を設定します。
係数	スケーラーの係数を設定します。 スケーラーが未設定の場合は1になります。
オフセット	データを計算する処理(加算、減算)を設定します。
値	オフセットの値を設定します。 オフセットが未設定の場合は0になります。
デバイス	クラウドへアップロードするデバイスを選択します。
開始アドレス	データの読み取り開始アドレスを設定します。 10進数または16進数で入力します。
インデックス	クラウドへアップロードするデータのインデックス(0~49)を入力します。 サンプルングデバイス設定で登録した要素数の範囲で設定してください。
データ形式	クラウドへアップロードするデータのデータ型を設定します。データ形式ごとにサイズと数値の範囲が異なります。 S:10進数 16ビット符号あり：符号付き 16bit 整数 (-32768~32767)

	U:10 進数 16 ビット符号なし：符号なし 16bit 整数(0～65535) L:10 進数 32 ビット符号あり：符号付き 32bit 整数(-2147383648～2147483647) D:10 進数 32 ビット符号なし：符号なし 32bit 整数(0～4294967295) ビット：符号なし 16bit 整数(0～1) 文字列：文字列
バイトオーダー	データ形式が”文字列”のバイトオーダーを設定します。 ・リトルエンディアン ・ビッグエンディアン
文字列数(WORD 数)	文字列数(1～50)を設定します。

4.3.4.6. 三菱電機(MELSEC シリアル)

デバイス設定

デバイス設定 プロトコル接続設定 サンプリングデバイス設定 クラウドとのタグ設定

クラウドへアップロードするデータの設定をして下さい。

デバイスNo. 1: MCプロトコル シリアル: test サンプリング登録したデータを全て追加

[▼詳細説明](#)

	データ名	スケーラー	係数	オフセット	値	局番	デバイスコード	開始アドレス	インデックス	アクセスタイプ	データ型	バイトオーダー	文字列数(WORD数)
1						0～255		0～65535, 0～FFFF	0～49				1～50

[設定項目]

クラウドとのタグ設定	
項目	説明
データ名	クラウドへアップロードするデータのデータ名を設定します。設定したデータ名でクラウドへアップロードされます。重複しないデータ名を入力してください。
スケーラー	データを計算する処理(乗算、除算)を設定します。
係数	スケーラーの係数を設定します。スケーラーが未設定の場合は1になります。
オフセット	データを計算する処理(加算、減算)を設定します。
値	オフセットの値を設定します。オフセットが未設定の場合は0になります。
局番	クラウドへアップロードする PLC の局番を設定します。
デバイスコード	サンプリングデバイス設定に設定したデバイスコードを選択します。サンプリングデバイス設定に設定していないデバイスコードを

	設定すると保存時にエラーになります。
開始アドレス	前項 デバイスコードが一致する、サンプリングデバイス設定に設定した開始アドレスを設定します。 前項 デバイスコードと一致しない、または、サンプリングデバイス設定に設定していない開始アドレスを設定すると保存時にエラーになります。 デバイスコードと開始アドレスで一意に決まります。
インデックス	前項 デバイスコードと開始アドレスが一致する、サンプリングデバイス設定に設定した要素数の範囲内で設定します。 範囲は、0 から要素数-1 までの値となります。 要素数以上の値を設定すると保存時にエラーになります。
アクセスタイプ	未使用
データ型	クラウドへアップロードするデータのデータ型を設定します。データ型ごとにサイズと数値の範囲が異なります。 INT16：符号付き 16bit 整数 (-32768～32767) UINT16：符号なし 16bit 整数(0～65535) INT32：符号付き 32bit 整数(-2147383648～2147483647) UINT32：符号なし 32bit 整数(0～4294967295) FLOAT：32bit 単精度実数($\pm 10^{-38} \sim 10^{38}$) BIT：符号なし 16bit 整数(0～1) STRING：文字列
バイトオーダー	データ型が"STRING"のバイトオーダーを設定します。 ・リトルエンディアン ・ビッグエンディアン
文字列数(WORD 数)	文字列数(1～50)を設定します。

設定可否の条件

設定するデバイスコード、開始アドレス、インデックス、データ型により設定の可能、不可能があります。詳しくは**エラー! 参照元が見つかりません。エラー! 参照元が見つかりません。**を参照ください。

4.3.4.7. Modbus RTU, Modbus ASCII

デバイス設定

デバイス設定 プロトコル接続設定 サンプルングデバイス設定 クラウドとのタグ設定

クラウドへアップロードするデータの設定をして下さい。

デバイスNo. 1 : MODBUS RTU : test サンプルング登録したデータを全て追加 CSVからのインポート CSVへのエクスポート

▼詳細説明

データ名	スケーラー	係数	オフセット	値	局番	ファンクションコード	開始アドレス	インデックス	データ型	バイトオーダー	文字列数(WORD数)
1					1~255		1~65535	0~49			1~50

[設定項目]

クラウドとのタグ設定	
項目	説明
データ名	クラウドへアップロードするデータのデータ名を設定します。 設定したデータ名でクラウドへアップロードされます。 重複しないデータ名を入力してください。
スケーラー	データを計算する処理(乗算、除算)を設定します。
係数	スケーラーの係数を設定します。 スケーラーが未設定の場合は1になります。
オフセット	データを計算する処理(加算、減算)を設定します。
値	オフセットの値を設定します。 オフセットが未設定の場合は0になります。
局番	クラウドへアップロードする PLC の局番を設定します。
ファンクションコード	クラウドへアップロードするファンクションコードを選択します。設定したファンクションコードに従って、PLC は指定された機能を実行します。 1 : read coils Discrete Output の ON/OFF 状態を読出します。 2 : read discrete inputs Discrete Input の ON/OFF 状態を読出します。 3 : read holding registers 保持レジスタの内容を読出します。 4 : read input registers 入力レジスタの内容を読出します。 5 : write single coil Discrete Output の ON/OFF 状態を書き込みます。 6 : write single register 保持レジスタの内容を書き込みます。
開始アドレス	クラウドへアップロードするデータの読み取り開始アドレスを

	設定します。開始アドレスとインデックスの設定値によって、アップロード対象のアドレスを設定します。 10進数で入力します。
インデックス	クラウドへアップロードするデータのインデックス(0~49)を入力します。 サンプリングデバイス設定で登録した要素数の範囲で設定してください。
データ型	クラウドへアップロードするデータのデータ型を設定します。データ型ごとにサイズと数値の範囲が異なります。 INT16：符号付き 16bit 整数 (-32768~32767) UINT16：符号なし 16bit 整数(0~65535) INT32：符号付き 32bit 整数(-2147383648~2147483647) UINT32：符号なし 32bit 整数(0~4294967295) FLOAT：32bit 単精度実数($\pm 10^{-38} \sim 10^{38}$) STRING：文字列
バイトオーダー	データ型が”STRING”のバイトオーダーを設定します。 ・リトルエンディアン ・ビッグエンディアン
文字列数(WORD 数)	文字列数(1~50)を設定します。

設定値を入力後、“保存”をクリックすることで設定値を保存します。

保存時はデバイス設定、プロトコル接続設定、サンプリングデバイス設定も同時に登録されます。

※クラウドとのタグ設定が未登録の場合は空データが保存されます。

4.3.4.8. CSV のインポート、エクスポート

「[5.1 CSV のインポート、エクスポートについて](#)」を参照してください。

4.3.4.9. サンプル登録したデータを全て追加

サンプリングデバイス設定で登録済みのアドレスを全て追加します。

追加する際は、登録済みのデータは全て初期化されます。

①”サンプリング登録したデータを全て追加”をクリックしてサンプリング登録したデータを全て追加ウィンドウを開きます。



②”はい”をクリックします。



4.4. バックアップ

4.4.1. 設定内容のバックアップ

本体内の設定をお使いの PC 端末にエクスポートし、設定内容をバックアップします。
パスワードの紛失などの理由で工場出荷状態に戻した後、再設定が不要になります。
各種設定を変更した場合、バックアップをしておくことをお勧めします。

“実行”をクリックするとバックアップファイル(kesiotlogic_1.signed,kesiotlogic_2.signed,
kesiotlogic_db_1.signed)をエクスポートします。



※ 取扱情報の性質上(コピー媒体の抑止観点)より、ほかキー類は、バックアップの対象より外しております。取扱には十分ご注意ください。

5. 共通操作

5.1. CSV のインポート、エクスポートについて

「4.3 デバイス設定」～「4.3.4 クラウドとのタグ設定」では、CSV ファイルのインポート、エクスポートによる設定が可能です。

設定値を Excel ファイルなどでまとめたものがあれば、CSV ファイルを利用することで、ブラウザ上で設定値を入力するよりも短時間で設定することができます。

CSV ファイルのフォーマットについては、下記のような手順でダミーの設定値を登録して、エクスポートすることで確認することができます。

- ① ダミーの設定値を登録します。



CSVからインポート

ファイル選択 apd_ext.csv

区切り文字
カンマ

文字コード
UTF-8

改行コード
LF

CSVファイルプレビュー画面

データ名	スケイラ	係数	オフセット	デバイス値	開始アドレス	インデックス	アクセスタイプ	データ型
1 sample1	NONE	NONE	NONE	D	100	1	WORD	UINT16
2 sample2	NONE	NONE	NONE	D	100	2	WORD	UINT16
3 sample3	NONE	NONE	NONE	D	100	3	WORD	UINT16
4 sample4	NONE	NONE	NONE	D	100	4	WORD	UINT16
5 sample5	NONE	NONE	NONE	D	100	5	WORD	UINT16

- ② 下記の設定でエクスポートします。



CSVへのエクスポート

ファイル名 (半角で入力して下さい)
plc_text

ファイル形式
CSV(カンマ区切り)(*.csv)

文字コード
UTF-8(BOMあり)

改行コード
LF

※空行はエクスポート対象から除外されます。

閉じる エクスポート

CSV ファイルの内容は以下の通りです。

1 行目に設定項目、2 行目以降に設定値が出力されます。

このフォーマットを参考にしてインポート用の CSV ファイルを作成することができます。
(dummy.csv)(例：デバイス設定)

デバイス No,プロトコル,ユニット名,バージョン
1,MC プロトコル,MC_Test1,Version1

5.1.1. CSV からのインポート

CSV ファイルを読み込んで、各種設定をすることができます。

① “CSV からのインポート”をクリックしてインポートウインドウを開きます。

デバイス設定

デバイス設定
プロトコル接続設定
サンプリングデバイス設定
クラウドとのタグ設定

接続するデバイスの設定をして下さい。

📄 CSVからのインポート
📄 CSVへのエクスポート

[▼ 詳細説明](#)

	デバイスNo	プロトコル	ユニット名	バージョン
1	1~8			

- ② インポートするファイルを選択して”確認”をクリックします。



CSVからインポート

ファイル選択 sample_device_setting.csv

区切り文字
カンマ


文字コード
UTF-8

改行コード
LF

閉じる 確認 登録済みの設定に追加 登録済みの設定を上書き

- ③ CSV の設定内容がプレビューに表示されます。

”登録済みの設定に追加”をクリックすると、現在の設定にプレビューの内容が追加されます。”登録済みの設定を上書き”をクリックすると、現在の設定を上書きして、プレビューの内容のみが設定されます。



CSVからインポート

ファイル選択 sample_device_setting.csv

区切り文字
カンマ

文字コード
UTF-8

改行コード
LF

CSVファイルプレビュー画面

デバイスNo	プロトコル	ユニット名	バージョン
1	MCプロトコル	MC_Test1	Version1
2	MODBUS TCP	MODBUS_TCP	Version3

閉じる 確認 登録済みの設定に追加 登録済みの設定を上書き

5.1.2. CSV からのインポート

現在の各種設定を CSV ファイルに出力することができます。

- ① “CSV へのエクスポート”をクリックします。

デバイス設定

デバイス設定 プロトコル接続設定 サンプリングデバイス設定 クラウドとのタグ設定

接続するデバイスの設定をして下さい。

[▼ 詳細説明](#)

	デバイスNo	プロトコル	ユニット名	バージョン
1	1~8			

- ② 保存するファイル名を入力して、文字コード、改行コードを選択して”エクスポート”をクリックします。

CSVへのエクスポート

ファイル名 (半角で入力して下さい)
sample_device_setting

ファイル形式
CSV(カンマ区切り)(* .csv)

文字コード
UTF-8(BOMあり)

改行コード
LF

※空行はエクスポート対象から除外されます。

